KENWOOD

オーディオ ビデオサラウンドレシーバー

KRF-X9070D

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

付属のリモコンについて

本機のリモコンは、従来のリモコンに比べて多くの操作モードを持っています。
リモコンを有効に使用するためにもこの取扱説明書をよくお読みになり、リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたなどをよくご理解の上でご使用ください。
リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたを知らないまま操作すると、正しく操作できないことがあります。

B60-5387-00 00 (MA) (J) AP 0304

はじめに

取扱説明書の使用方法

本書は、準備編、操作編、リモコン操作編、その他、の4つの章に分かれています。

準備編
安全上のご注意、お手持ちのオーディオおよびビデオ機器との接続のしかたや、サラウンド設定などの準備のしかたを説明しています。
まずはじめに安全上のご注意をよくお読みください。またお手持ちのオーディオやビデオ機器によっては、接続がとても複雑になることがありますので、取扱説明書をよくお読みのうえ、接続してください。

操作編
本機で使用できる各種機能の操作方法を説明しています。

リモコン操作編
他の機種をリモコンで操作するための方法を説明しています。各種の設定、登録を済ませておくと、本機とお手持ちのAV機器（テレビやビデオ、CDプレーヤー等）が、本機に付属のリモコンだけで操作できるようになります。

その他
「故障かな？と思ったら」、「定格」などを示してあります。

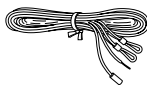
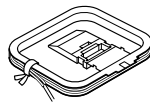
セットのお手入れ
前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について
接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

ステレオ音のエチケット
楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。近くにいる人や、隣り近所への配慮を十分いたしましょう。特に密集した場所でご使用になる場合は、音量を控え目にするなどして、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

FM 室内アンテナ（1本）

AM ループアンテナ（1個）

リモートコントロールユニット（1個）
（RC-R0820）

リモコン用単3乾電池(2本)

本機の特長

多彩なホームシアター機能
本機には、ご家庭で映像ソフトやオーディオソースを十分に楽しんでいただくために多彩なリッスンモードを用意しています。お手持ちの機器や、再生する映像ソフトに合わせてモードを選び、お楽しみください。 →35

THX
THXモードはTHX特有の機能を作動させ、ご家庭で映画館のような雰囲気を楽しめます。 →37

THX Surround EX
THX Surround EXモードでは、Dolby Digital Surround EX技術を使ってサウンドトラックをミキシングする時に追加されたチャンネルを再生することができます。このチャンネルはサラウンドバックと呼ばれます。THX Surround EXモードはTHX特有の機能を作動させ、ご家庭で映画館のような雰囲気を楽しめます。 →37

Dolby Digital および Dolby Digital EX
Dolby Digitalリッスンモードは Dolby Digitalフォーマット（5.1channel）のサウンドソースを楽しむことができます。このフォーマットでは、最大5.1チャンネルの独立したデジタル信号が入力されるので、従来のドルビーデジタルサウンドソースに比べて、圧倒的に高音質で迫力ある臨場感を楽しむことができます。Dolby Digital Surround EXフォーマットは、サラウンドバックチャンネルを従来の左と右のサラウンドチャンネルのサウンドソース上に埋め込むことができ、再生する際は、サラウンドバックチャンネル用のスピーカーを視聴する場所の後ろに置くことにより、映画館で体験するような、音の躍動感をご家庭で楽しむことができます。THX Surround EXおよびDolby Digital EXリッスンモードは両方ともDolby Digital Surround EXファーマットのサウンドソースを楽しむためのリッスンモードですが、好みにより使い分けることができます。

Dolby PRO LOGIC II
DOLBY PRO LOGIC II は、従来のPRO LOGICとの互換性を持ちながら、より高いサラウンド効果を生み出します。通常のステレオ録音やドルビーサラウンド録音のソフトでも、「5.1ch」のように聞こえます。PRO LOGIC II は空間全体に影響を及ぼすような、前後に広がりのあるサウンド空間をつくり出すのが特長です。PRO LOGIC IIは DOLBY SURROUND マークのあるビデオソフトでは感動的なサラウンドサウンドを生み出し、音楽CDでは3次元的なサウンド空間をつくり出します。お好きな音楽で本格的なステレオサラウンドサウンドをお楽しみください。

DTS-ES
DTS-ES（Extended Surround）は　従来の5.1chのサラウンドを発展させ、バックサラウンドチャンネルが加わった6.1chサラウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD, CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したバックサラウンドを持つDTS-ES Discrete 6.1 と　マトリクス技術を駆使し左右のサラウンドチャンネルに埋め込まれたバックサラウンドを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたバックサラウンドチャンネルによる6.1chサラウンド再生は　後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。
NEO:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6チャンネルサラウンドを楽しむことが可能です。NEO:6には映画を楽しむための"CINEMA" モードと音楽を楽しむための "MUSIC" モードの2つのモードがあります。
重要：
DTSディスクをCD、LDまたはDVDプレーヤで再生するとアナログ出力チャンネルにノイズが乗ることがありますので、デジタル出力を本機に接続することを推奨します。

SRS Circle Surround II (●)CS
SRS Circle Surround II™はCS-6.1™システムによりCS-5.1™システムを改善し、ステレオソースまたは在来のサラウンドでエンコードされたビデオソースからリアルなマルチチャンネルのサラウンド音を聞くことができます。すでにドルビーデジタルサウンド/DTSマルチチャンネルサウンドをマルチスピーカーで聞いて楽しんでいると思いますが、これからは、マルチスピーカーを使用してオーディオCD、MD、放送そしてホームシアターを楽しんでください。SRS Circle Surround II™で新しいタイプの音が発見できます。

AAC
AAC（Advanced Audio Coding）は高音質と高圧縮率を多チャンネルでも両立できる特長を持ち、5.1チャンネルなどのマルチチャンネル信号を送信するのに適したマルチチャンネル音声フォーマットです。現在BSデジタル放送に採用されていますので、BSデジタル放送で配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画などを、臨場感あるサラウンド再生でお楽しみいただけます。

DSP サラウンドモード
本機のDSP（デジタルシグナルプロセッサー）では、“ARENA”、“JAZZ CLUB”、“THEATER”、“STADIUM”、“DISCO”といった様々な質の高い音場効果が得られます。

ACTIVE EQ
ACTIVE EQモードは再生音をより迫力のあるものにします。ACTIVE EQモードによりどのような条件においてもよりダイナミックで高品質の音が作り出せます。ドルビーデジタルそしてDTS再生においてACTIVE EQモードにすることにより、より印象的な音響効果を楽しむことができます。

SPEAKER EQ
組み合わされるスピーカーの特性に合った調整を行う機能で、スピーカーのサイズに合った特性にすることで、特にミュージックソースを聞くときなど、そのソースの原音に近い特性を引き出すことができます。小型スピーカーなど、スピーカーの大きさにかかわらず、臨場感のあるサウンドが楽しめます。

赤外線リモコン
リモコンで働くほとんどのオーディオ、ビデオ機器を本機のリモコンで操作できます。接続した機器を簡単な手順で登録することができます。

目次

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、ご使用の前に必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります）

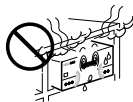
警告

交流100ボルト以外の電圧で使用しない

この機器は、交流100ボルト専用です。指定以外の電源電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

放熱に注意

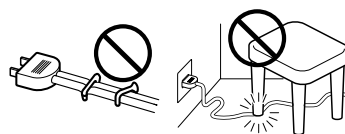
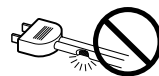
設置の際は、壁から10cm以上離してください。
機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔ですので、ふさがないようにご注意ください。

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 風通しの悪い狭い所に押し込まない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上において使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

電源コードの取扱い

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定しないでください。また、電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は

煙が出たり、変な臭いや音がする場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

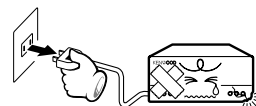
警告

電源プラグは清潔に

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

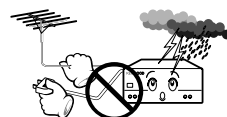
きれいにしましょう

落下した機器は使わない

機器を落としたり、カバーやケースがこわれた場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

ケースを絶対に開けないでください

機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。
内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

雷が鳴り始めたら

アンテナ線や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かないでください。
こぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に水や異物などが入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

電池は放置しない

電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。ボタン電池など小型の電池は特にご注意下さい。
電池をあやまって飲み込むおそれがあります。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

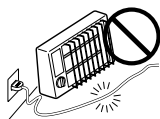
乾電池は充電しない

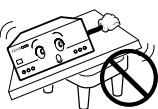
乾電池は充電しないでください。
電池の破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

充電禁止

注意

電源コードを熱器具に近付けない

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近付けないでください。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

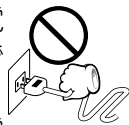
温度の高い場所には置かない

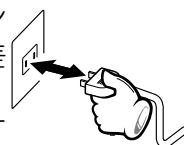
窓を閉めきった自動車の中や、直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

電源プラグの抜き差しは

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。
発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

注意

長期間使用しないときは

旅行などで長期間、ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災の原因となることがあります。

指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。
指定以外のコードを使用したりコードを延長すると発熱し、やけどの原因となることがあります。

機器に乗らない

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

指をはさまない

お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に手を入れないようご注意ください。
指がはさまれて、けがの原因となることがあります。

指定機器以外の物を乗せない

この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

レーザー光源はのぞかない

レーザー光源をのぞき込まないでください。
レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

アンテナ工事

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

ひび割れディスクは使わない

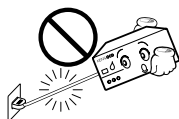
ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

注意

音量に気をつけて

はじめに音量(ボリューム)を最小にしてください。
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにしてください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動させる際は

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

電池の取扱い

電池は誤った使い方をすると、破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"ー"の向き)に注意し、表示通りに入れてください。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

お手入れの際は

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電の原因となることがあります。

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

メインユニット

❶ **POWER ON/OFF キー** →25
主電源のオン/オフを切り換えます。

❷ **ON/STANDBY ⏻ キー** →25
主電源がオンのとき、スタンバイ状態のオン/オフを切り換えます。
STANDBY 表示

❸ **SPEAKERS キー** →29
スピーカーのA/Bを切り換えます。

❹ **THX キー** →38
THXの状態を切り換えるときに使います。

❺ **SPEAKER EQ キー** →30
SPEAKER EQの設定をするときに使います。

❻ **サラウンド表示**

THX 表示 →39
THXモードが選ばれたときに点灯します。再生モードによってはTHXが作動しないことがあります。

SPEAKER EQ 表示 →31
SPEAKER EQモードのときに点灯します。

ACTIVE EQ 表示 →31
ACTIVE EQモードのときに点灯します。

DOLBY DIGITAL 表示 →38
ドルビーデジタル信号を入力しているときに点灯します。

DTS 表示 →38
DTS信号を入力しているときに点灯します。

AAC 表示 →38
AAC信号を入力しているときに点灯します。

❼ **ACTIVE EQ キー** →30
ACTIVE EQの設定をするときに使います。

❽ **DSP キー** →38
DSPモードを選択するときに使います。

❾ **STEREO キー** →39
リッスンモードを一時的にステレオに切り換えるときに使います。

❿ **INPUT MODE キー** →13
インプットモードの設定に使います。

⓫ **DIMMER キー**
録音モードをかえます。 →32
ディスプレイの明るさを調節します。 →42

⓬ **VOLUME CONTROL つまみ** →29

⓭ **MUTE キー** →30
音を一時的に消すときに使います。

⓮ **PHONES 端子** →31
ヘッドホンで聴くときに使います。

⓯ **インプットセレクターキー** →29
（DVD/6CH、CD/DVD、PHONO、TUNER、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、MD/TAPE）
入力ソースを選択します。

⓰ **SOUND キー** →40
音質や音場を調節したいときに使います。

⓱ **BAND キー** →33
放送バンドを切り換えます。

⓲ **TONE キー** →30
トーンを調節するときに使います。

⓳ **AUTO キー** →33
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。

⓴ **MEMORY キー** →33
放送局を登録するときに使います。

㉑ **SETUP キー** →25
スピーカーの設定などをするときに使います。

㉒ **∧/∨ キー** →25
サウンド、セットアップまたはプリセットチャンネル機能を調節するときに使います。

㉓ **MULTI CONTROL つまみ** →25
いろいろな設定に使います。

㉔ **LISTEN MODE つまみ** →38
リッスンモードを選ぶときに使います。

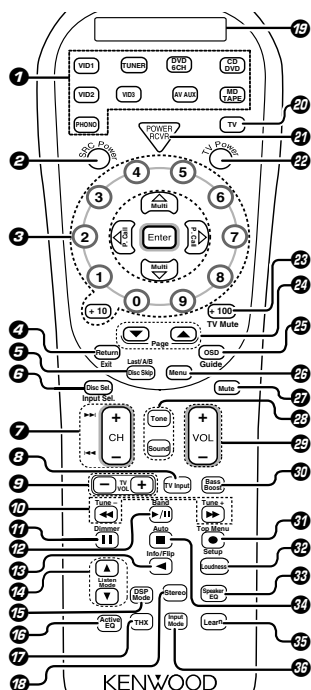
㉕ **AV AUX（S VIDEO、VIDEO、L-AUDIO-R）端子** →23

㉖ **AV AUX キー** →29
AV AUXへ入力を切り換えるときに使います。

スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンにできます。

リモコン

メーカーセットアップコードを正しく設定しておくと、ケンウッドの機器だけでなく、他社製の機器もリモコンで操作できます。 →46

本体とリモコンで機能が同じでも、キーまたはつまみの名称が異なるものがあります。本取扱説明書の説明文中では、本体とリモコンで名称が異なる場合は、リモコンキーの名称をかっこ内に表記します。

❶ **インプットセレクターキー(MD/TAPE、CD/DVD、DVD/6CH、TUNER、VID 1、VID 2、VID 3、AV AUX、PHONO)** →29 →43
入力ソースを選択します。
リモコンに他の機器を登録したり操作するときに使います。

❷ **SRC(ソース)Power キー**
リモコンに登録した他の機器の電源のオン/オフを切り換えます。

❸ **数字キー** →43
他の機器の操作に使います。
Multi △/▽(マルチコントロール)キー →25
いろいろな設定に使います。
他の機器の操作に使います。
P.Call ◁/▷(Multi ◁/▷)キー →34
いろいろな設定やラジオ放送の選局に使います。
Enter キー
他の機器の操作に使います。

❹ **Return キー**
DVDの操作に使います。
Exit キー
他の機器の操作に使います。

❺ **Disc Skip キー**
マルチCDプレーヤーを接続したときに、ディスクスキップキーとして使います。
Last/A/Bキー
他の機器の操作に使います。
ダブルカセットデッキを接続したときに、A、Bのカセット切り換えに使います。

❻ **Disc Sel. キー**
他の機器の操作に使います。
Input Sel. キー
他の機器の操作に使います。

❼ **CH ＋/－ キー**
チャンネルを選ぶときに使います。
▶▶| / |◀◀ キー
CDプレーヤー、MDレコーダーまたはDVDプレーヤーを操作するときに、スキップキーとして使います。

❽ **TV Input キー**
テレビの操作をするときに使います。

❾ **TV VOL ＋/－ キー**
テレビの音量を調節するときに使います。

❿ **◀◀ / ▶▶キー**
CDプレーヤー、MDレコーダー、DVDプレーヤー、カセットデッキまたはビデオデッキを操作するときに、サーチキーなどとして使います。
Tune ＋/－ キー
ラジオ放送の選局に使います。

⓫ **II キー**
他の機器の操作に使います。
Dimmer キー →42
ディスプレイの明るさを調節します。

⓬ **▶/II キー**
CDプレーヤーまたはカセットデッキを操作するときは、再生/一時停止キーとして使います。
DVDプレーヤー、MDレコーダーまたはビデオデッキを操作するときは、再生キーとして使います。
Band キー →33
放送バンドを切り換えます。

⓭ **◀ キー**
カセットデッキを操作するときは、リバース再生キーとして使います。
Info/Flip キー
他の機器の操作に使います。

⓮ **Listen Mode ▲/▼キー** →38
リッスンモードを選ぶときに使います。

⓯ **DSP Mode キー** →38
DSPモードを選択するときに使います。

⓰ **Active EQキー** →30
ACTIVE EQの設定をするときに使います。

⓱ **THXキー** →38
THXの状態を切り換えるときに使います。

⓲ **Stereo キー** →39
リッスンモードを一時的にステレオに切り換えるときに使います。

⓳ **LCD(液晶ディスプレイ)**

⓴ **TV キー**
テレビを操作するときに使います。

㉑ **POWER RCVR(レシーバー)キー** →25
本機の電源のオン/オフを切り換えます。

㉒ **TV Power キー**
テレビの電源のオン/オフを切り換えます。

㉓ **＋100 キー**
MDレコーダーを操作するときは、曲の選択に使います。
TV Mute キー
テレビの音を一時的に消すときに使います。

㉔ **Page ▲/▼キー**
DVDプレーヤーの操作に使います。

㉕ **OSD(オンスクリーン)キー**
DVDの操作に使います。
Guide キー
他の機器の操作に使います。

㉖ **Menu キー**
他の機器の操作に使います。

㉗ **Mute キー** →30
音を一時的に消すときに使います。

㉘ **Tone キー** →30
トーンを調節するときに使います。
Sound キー →40
音質や音場を調節したいときに使います。

㉙ **VOL ＋/－キー** →29
本機の音量を調節します。

㉚ **Bass Boost キー** →30
低音域を調節できる最大値に設定します。

㉛ **● キー**
MDレコーダー、カセットデッキまたはビデオデッキを操作するときは、録音キーとして使います。ビデオデッキを操作するときは、続けて2回押します。
Top Menu キー
DVDの操作に使います。
Setup キー →25
スピーカーの設定などをするときに使います。

㉜ **Loudness キー** →30
低音域を上げるときに使います。

㉝ **Speaker EQ キー** →30
SPEAKER EQの設定をするときに使います。

㉞ **■ キー**
CDプレーヤー、DVDプレーヤー、MDプレーヤー、カセットデッキまたはビデオデッキを操作するときは、停止キーとして使います。
Auto キー →33
ラジオ放送の自動受信とマニュアル受信を選ぶときに使います。

㉟ **Learn キー** →43 →44 →45
他の機器のリモコンの操作を記憶させるときに使います。

㊱ **Input Mode キー** →13
インプットモードの設定に使います。

接続のしかた

⚠ **注意** **接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続は14ページ～24ページをご覧ください。**

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障かな?と思ったら」を参照してマイコンをリセットしてください。 →53

⚠ **警告** *ACコンセント*

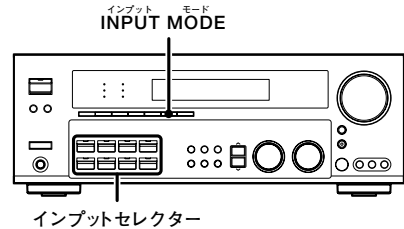
背面のACコンセントに接続する装置の消費電力の合計が指定値を超えないようにしてください。火災の原因になります。
電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。

ご注意
1.機器間の接続を行なうときは、必ず各機器の電源を切ってから行なってください。
2.すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
3.接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
4.屋外アンテナの設置は危険を伴いますので、販売店、または専門の技術者にご依頼ください。
5.近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

アナログ接続について

オーディオ機器はオーディオピンコードで接続します。その場合、音声はアナログステレオ信号で入出力されます。オーディオピンコードは赤い端子(R側に接続)と白い端子(L側に接続)のペアになっています。これらのコードはお手持ちの機器に付属されています。もしくはお近くの販売店で購入してください。

インプットモードの設定

CD/DVD、VIDEO(ビデオ) 2、VIDEO(ビデオ) 3、DVD/6CHの入力は、それぞれデジタル音声入力とアナログ音声入力の端子を持っています。
工場出荷時におけるCD/DVD、DVD/6CH、VIDEO(ビデオ) 2およびVIDEO(ビデオ) 3のオーディオ信号インプットモードはフルオートモードに設定してあります。
接続を終了し、本機の電源を入れた後に以下の操作でインプットモードを選んでください。

❶ **インプットセレクターキーでCD/DVD、VIDEO(ビデオ) 2、VIDEO(ビデオ) 3またはDVD/6CHを選ぶ。**

❷ **INPUT MODE(インプット モード)キーを押す。**

押すたびに切り換わります。

DTSモードのとき
① **FULL AUTO**(フル オート) (デジタル入力、アナログ入力)
② **DIGITAL MANUAL**(ディジタル マニュアル) (デジタル入力)

CD/DVD、VIDEO(ビデオ) 2、VIDEO(ビデオ) 3またはDVD/6CHのとき
① **FULL AUTO**(フル オート) (デジタル入力、アナログ入力)
② **DIGITAL MANUAL**(デジタル マニュアル) (デジタル入力)
③ **6CH INPUT**(インプット)※ (DVD/6CH入力)
④ **ANALOG**(アナログ) (アナログ入力)

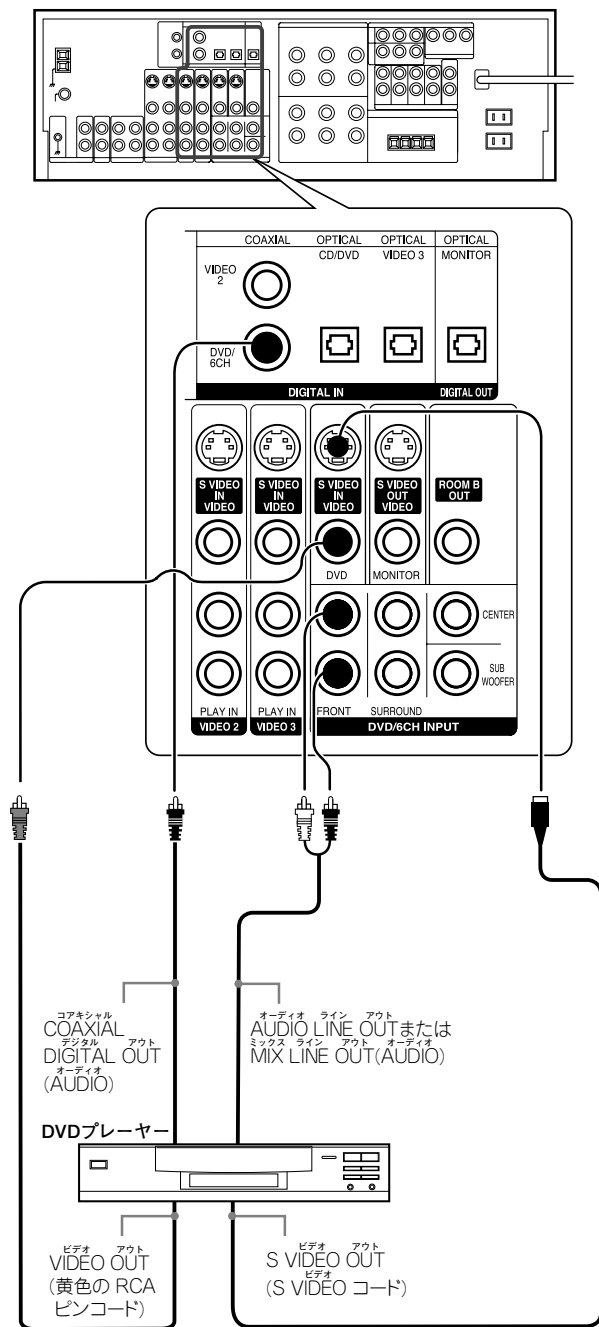
※ インプットセレクターキーで**DVD/6CH**を選んだときに選択ができます。

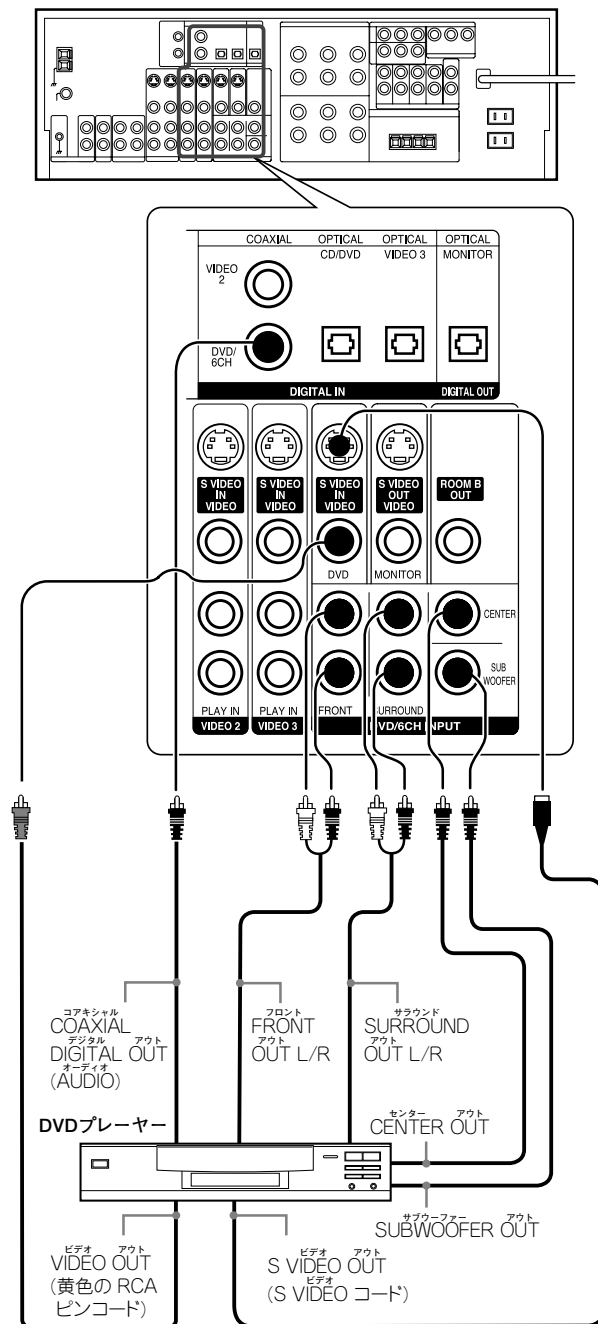
デジタル入力：
DVD、CD、LDなどに記録されているデジタル音声信号を再生したいときに選びます。

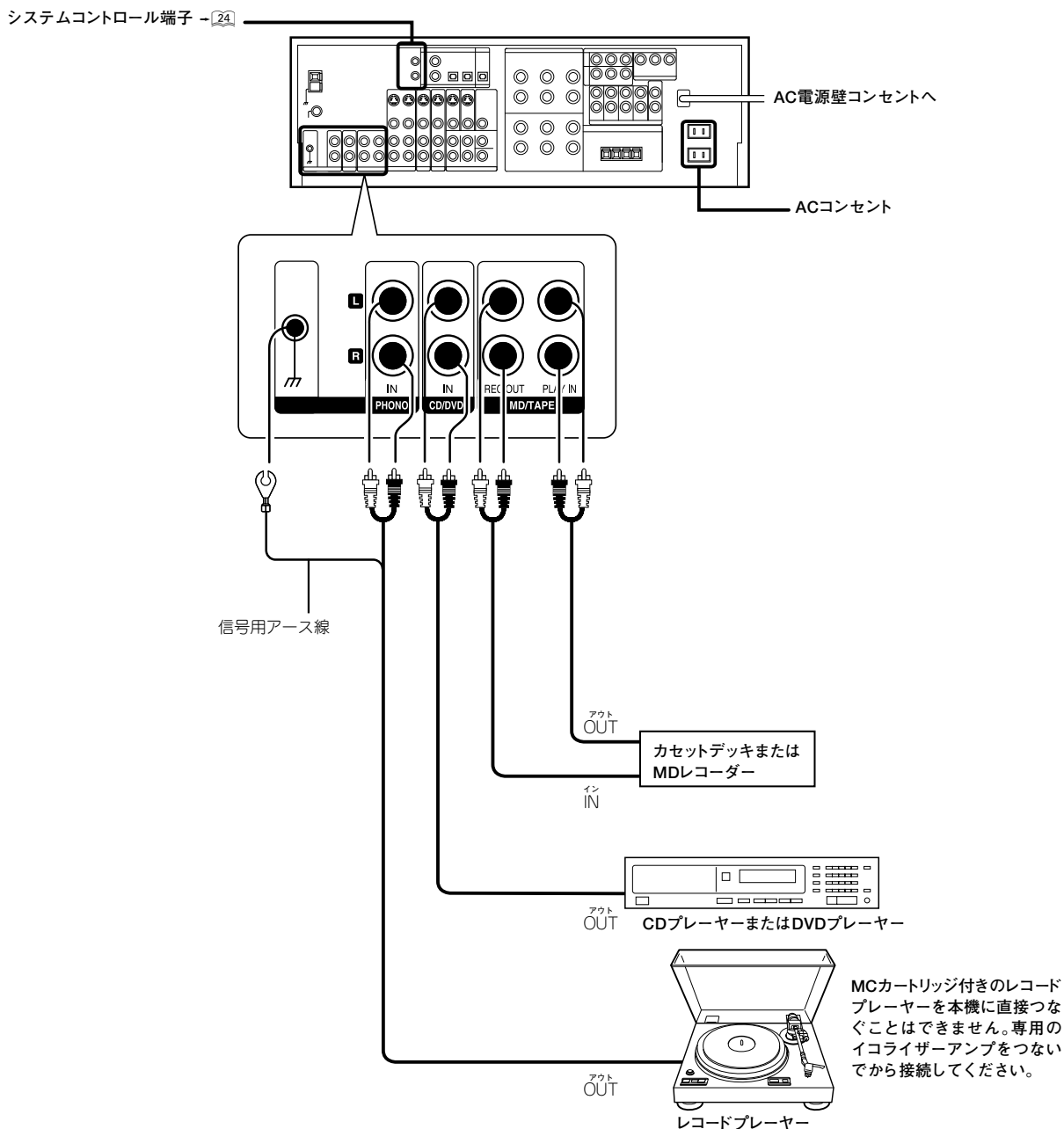
アナログ入力：
カセットテープ、ビデオテープ、レコードなどに記録されているアナログ音声信号を再生したいときに選びます。

オートディテクト：
FULL AUTO(フル オート)モード(ディスプレイ内の**AUTO DETECT**(オート ディテクト)表示点灯)ではデジタル入力信号を自動的に検出し、再生します。また、デジタルソース再生時には入力信号の種類(ドルビーデジタル、DTS、AAC、PCMなど)とスピーカーの設定に合わせてリッスンモードを自動的に選びます。デジタル信号が検出された場合は入力信号の経路に対応して**OPTICAL**(オプチカル)または**COAXIAL**(コアキシャル)表示が点灯します。アナログ信号が入力された場合は**ANALOG**(アナログ)表示が点灯します。
現在選んでいるリッスンモードを継続したい場合は、**INPUT MODE**(インプット モード)キーで**"DIGITAL MANUAL"**(デジタル マニュアル)(マニュアルサウンド)を選んでください。**"DIGITAL MANUAL"**に設定した場合、リッスンモードとドルビーデジタルソースの組み合わせによっては、設定したリッスンモードが自動的に変更されることがあります。
INPUT MODE(インプット モード)キーをすばやく押すと、音声が聞こえなくなることがあります。その場合再度**INPUT MODE**(インプット モード)キーを押し直してください。

DVDプレーヤーの接続

デジタル機器を接続したときは「インプットモードの設定」をよくお読みください。 →13

DVDプレーヤーの接続(6チャンネル入力)

DVDプレーヤーにアナログのマルチチャンネル出力がある場合は、**DVD/6CH INPUT**端子に接続しDVDプレーヤーのデコーダーを使用してマルチチャンネル再生をすることができます。
インプットモードの設定は**"6CH INPUT"**を選んでください。 →13
DVDプレーヤーの他に市販のマルチチャンネルデコーダーを接続することもできます。

- ドルビーデジタル、DTSなどマルチチャンネル信号を再生する合は、デジタル音声の接続が必要です。
- ここで接続したDVDプレーヤーを再生するときは、インプットセレクター"DVD/6CH"を選んでください。 →29
- DVDプレーヤーにコンポーネント映像出力がある場合は、COMPONENT VIDEO DVD IN端子に接続することができます。 →18
- 映像入力端子は、インプットセレクター"DVD/6CH"と"CD/DVD"の共用端子になっています。

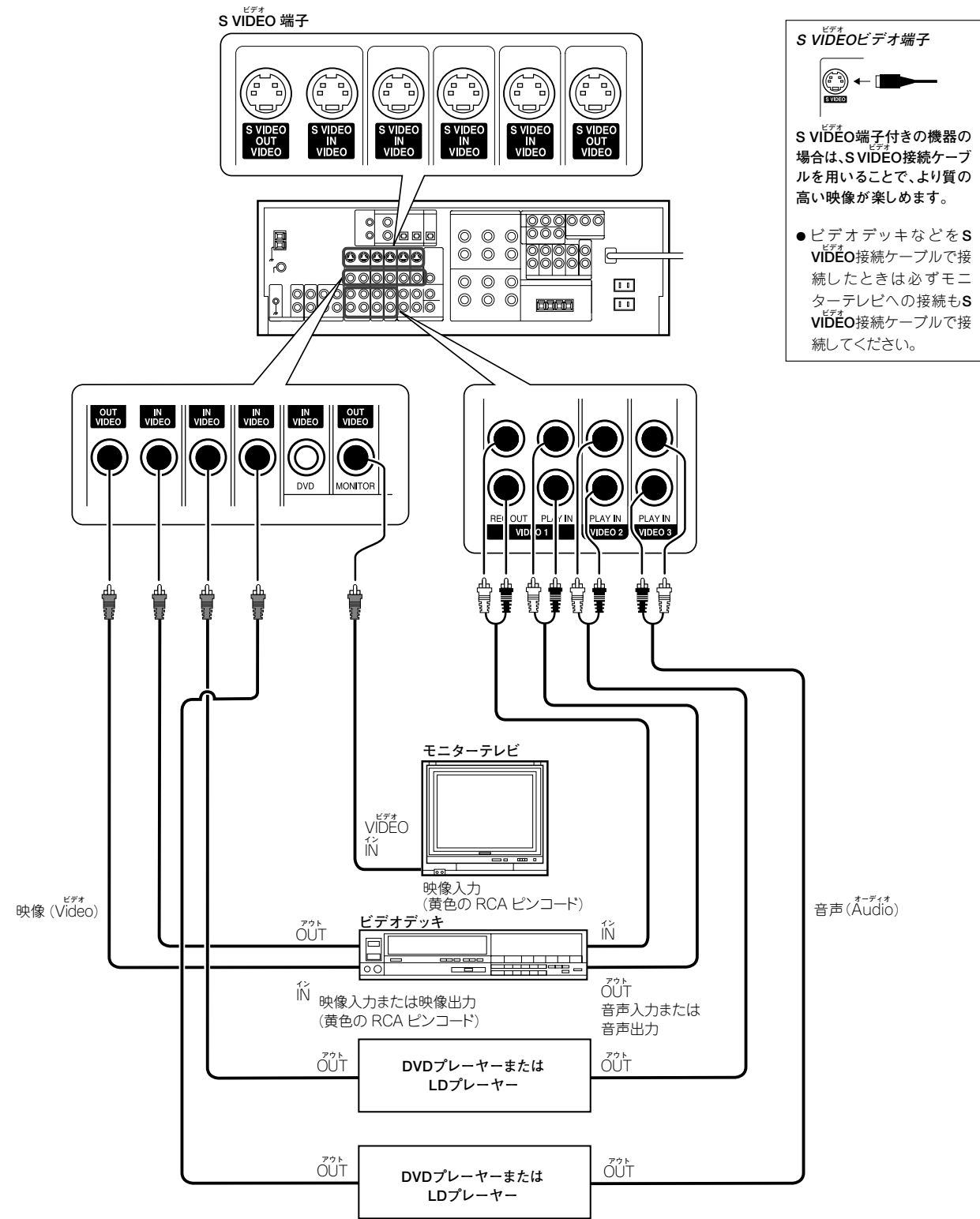
オーディオ機器の接続

- CD/DVD端子に映像機器を接続する場合は、機器の映像出力を本機の映像入力端子“DVD”に接続してください。機器にコンポーネント映像出力がある場合は、COMPONENT VIDEO DVD IN端子に接続することができます。 →18
  これらの端子に接続した機器を再生するときは、インプットセレクター“CD/DVD”を選んでください。 →29
  これらの映像入力端子は、インプットセレクター“DVD/6CH”と“CD/DVD”の共用端子になっています。
- この端子（⏚マークの端子）はアナログプレーヤー等を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

ビデオ機器の接続

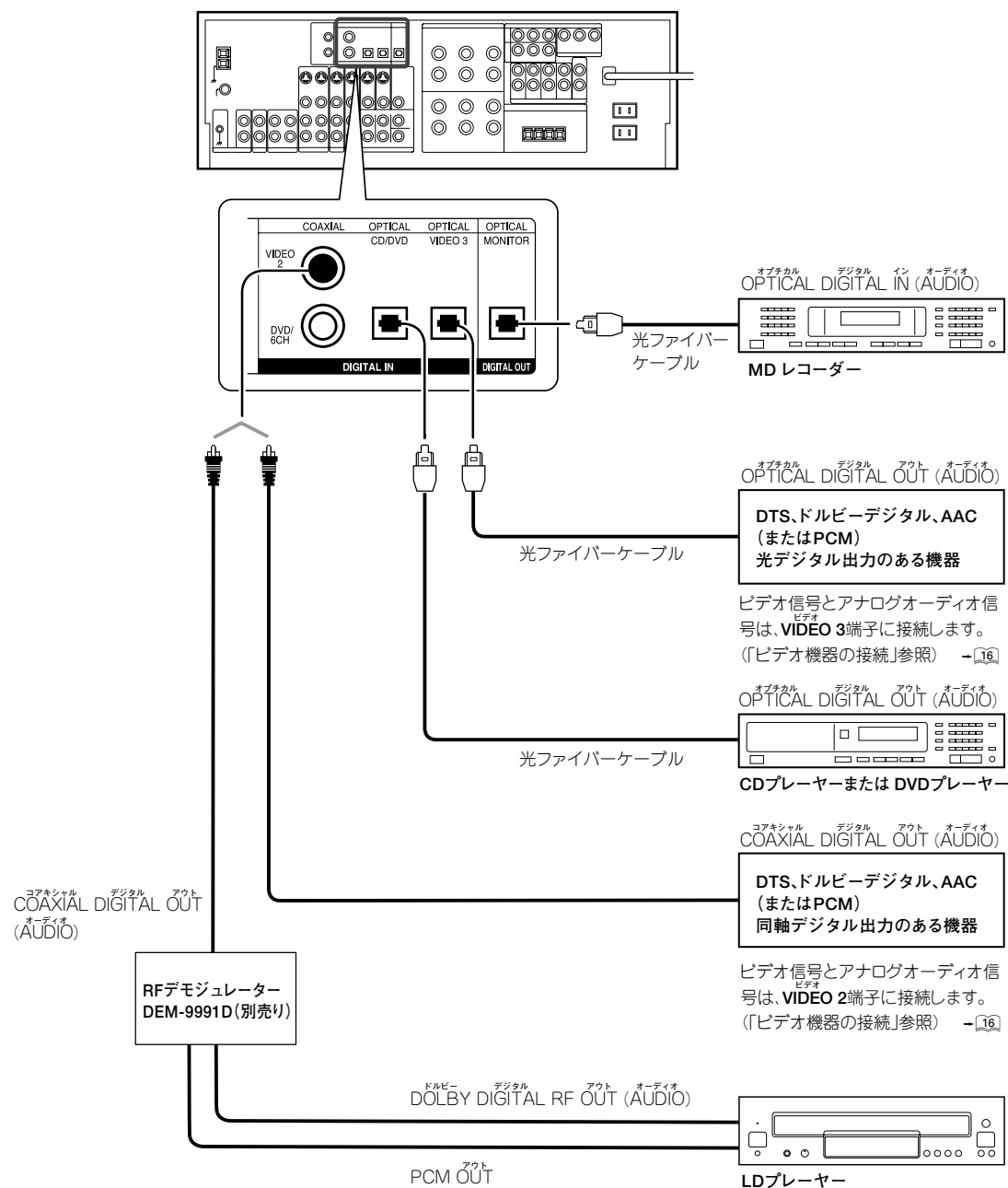
S VIDEOビデオ端子

S VIDEO

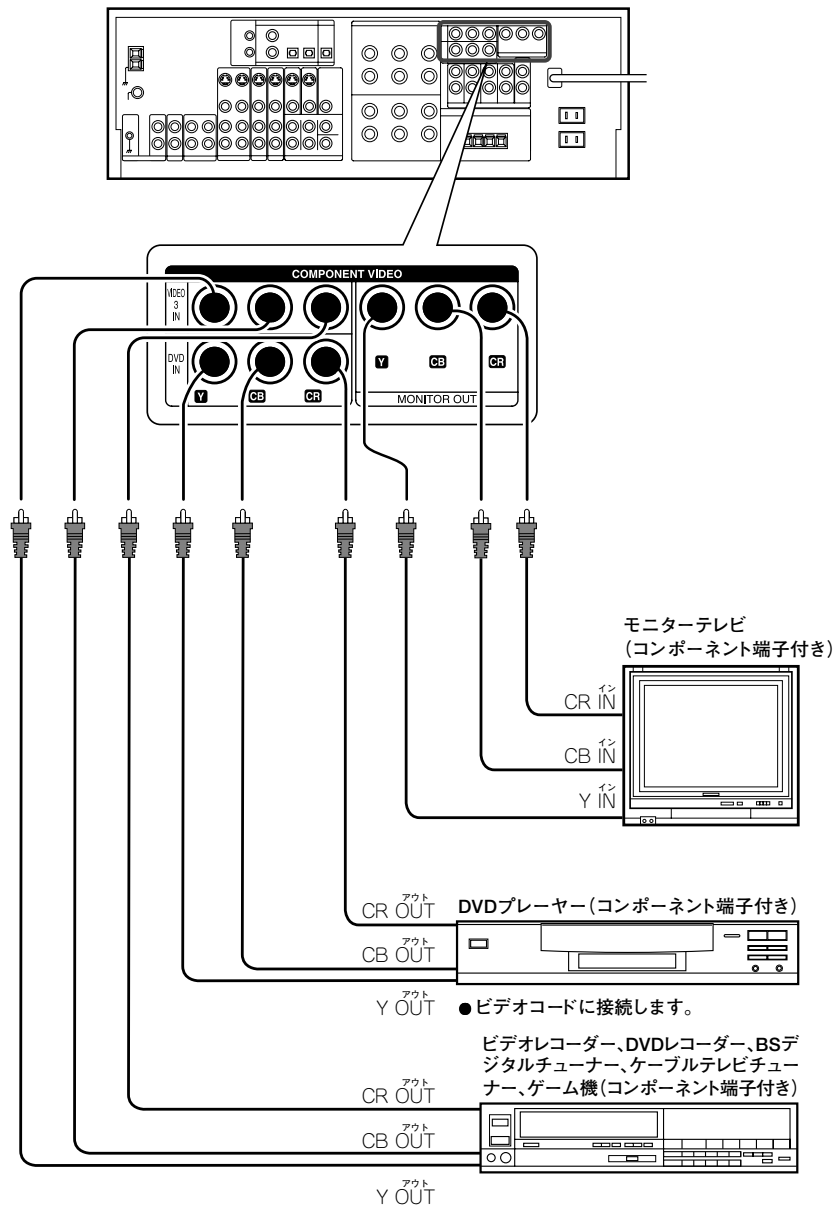
S VIDEO端子付きの機器の場合は、S VIDEO接続ケーブルを用いることで、より質の高い映像が楽しめます。

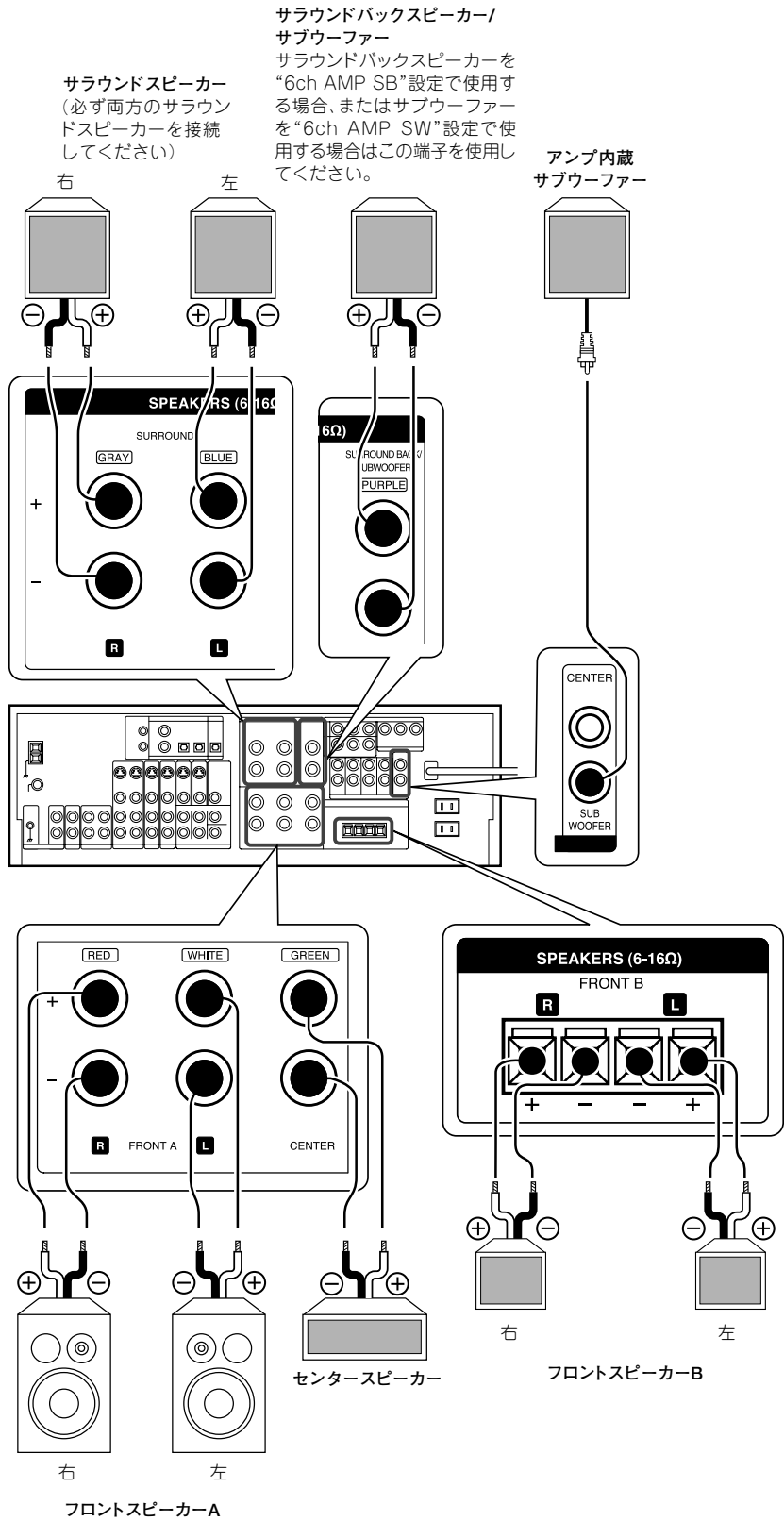
- ビデオデッキなどを**S VIDEO**接続ケーブルで接続したときは必ずモニターテレビへの接続も**S VIDEO**接続ケーブルで接続してください。

デジタル音声出力のあるビデオ機器をお持ちの方はVIDEO 2またはVIDEO 3端子に接続してください。

デジタル機器の接続

デジタル入力端子はドルビーデジタル、DTS、AACまたはPCM信号で使用できます。ドルビーデジタル、DTS、AACまたはPCM（CDなど）標準フォーマットのデジタル信号を出力できる機器を接続します。
デジタル機器を接続したときは「インプットモードの設定」をよくお読みください。 →13

DIGITAL RF OUT端子のあるLDプレーヤーを接続するには、LDプレーヤーを別売りのRFデモジュレーター（DEM-9991D）に接続します。
それから、デモジュレーターのDIGITAL OUTを本機のDIGITAL IN端子に接続します。
ビデオ信号とアナログオーディオ信号をVIDEO 2端子またはVIDEO 3端子に接続します。（「ビデオ機器の接続」参照）

ビデオ機器の接続（COMPONENT VIDEO）

COMPONENT端子を使用してレシーバーとビデオ装置の接続をした場合はS VIDEO端子を使用して接続した場合よりも高品質の画像が得られます。

COMPONENT端子を使ってテレビを接続する場合は、他のすべての機器もCOMPONENT端子を使って接続してください。

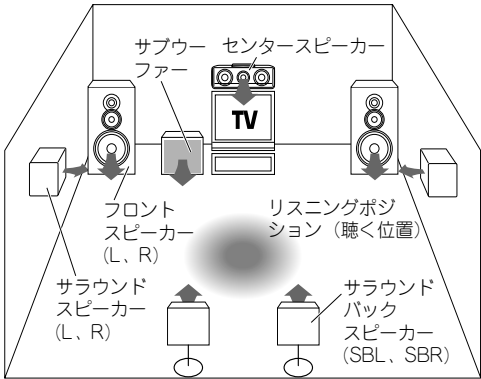
スピーカーの接続

サラウンドスピーカー
（必ず両方のサラウンドスピーカーを接続してください）
右
左
サラウンドバックスピーカー/サブウーファー
サラウンドバックスピーカーを"6ch AMP SB"設定で使用する場合、またはサブウーファーを"6ch AMP SW"設定で使用する場合はこの端子を使用してください。
アンプ内蔵サブウーファー
SPEAKERS (6-16Ω)
SURROUND
GRAY
BLUE
+
–
R
L
SURROUND BACK/SUBWOOFER
PURPLE
CENTER
SUB WOOFER
RED
WHITE
GREEN
FRONT A
FRONT B
+ – – +
右
左
センタースピーカー
フロントスピーカーB
右
左
フロントスピーカーA

スピーカーターミナルの接続

- スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

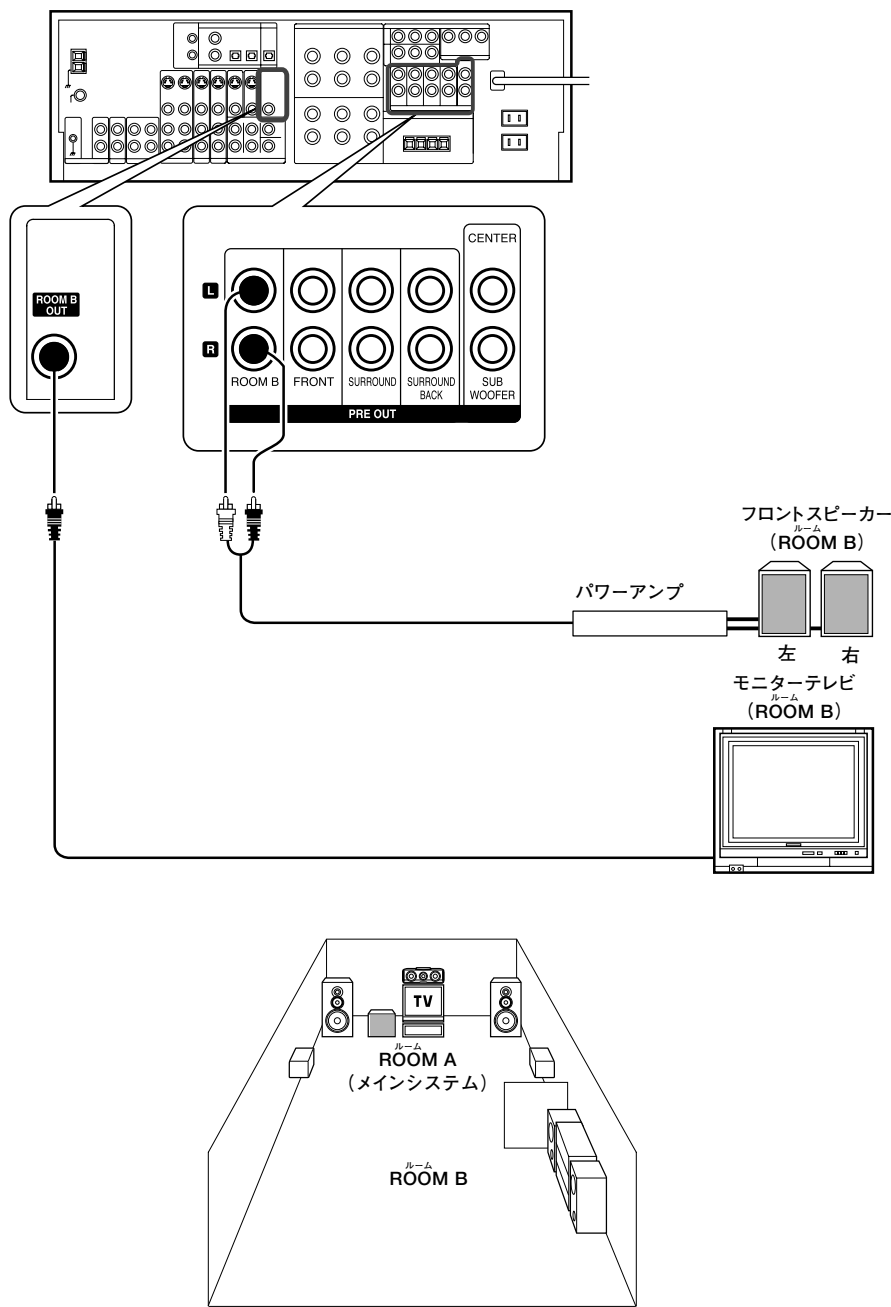
スピーカーインピーダンス

フロントスピーカー .... 6～16 Ω
センタースピーカー .... 6～16 Ω
サラウンドスピーカー .... 6～16 Ω
サラウンドバックスピーカー .... 6～16 Ω
サブウーファー .... 6～16 Ω

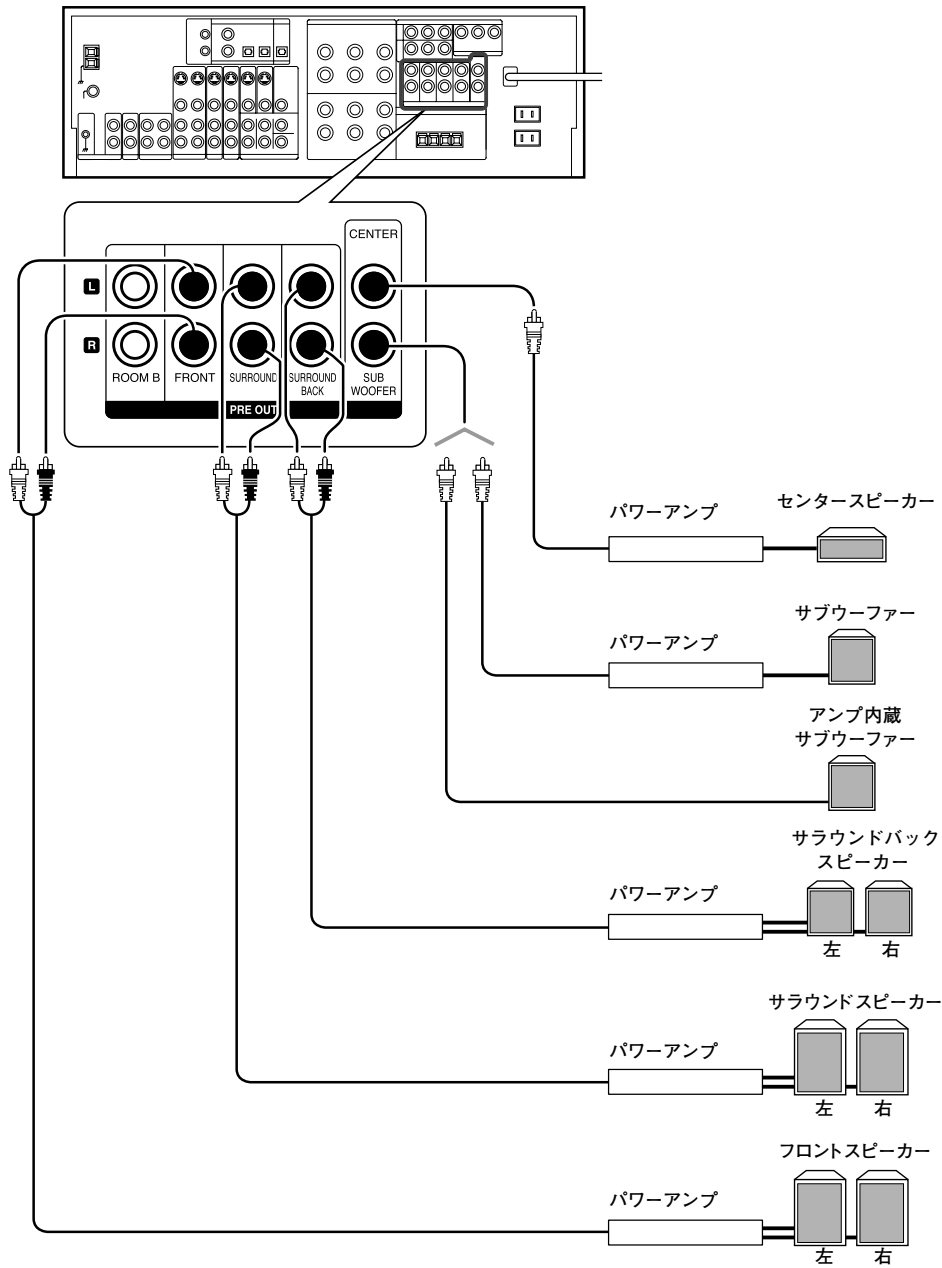
サラウンドスピーカーの設置のしかた

フロントスピーカー　：前面左右に設置します。モードにかかわらず必ず使用します。
センタースピーカー　：前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。サラウンド再生には必ず必要です。
サラウンドスピーカー：座る位置の真横または少し後ろで、聴く人の耳の位置より1メートルほど上方に、水平な状態で設置してください。音の移動感や臨場感などを再現します。サラウンド再生には必ず必要です。
サブウーファー　：重低音を迫力ある音で再現します。
サラウンドバックスピーカー　：サラウンドバックスピーカーは視聴位置の後ろでサイドサラウンドスピーカーと同じ高さに設置してください。

- すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーまたはサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適な再生を行います。 ➡25

他の部屋への接続(ROOM B)

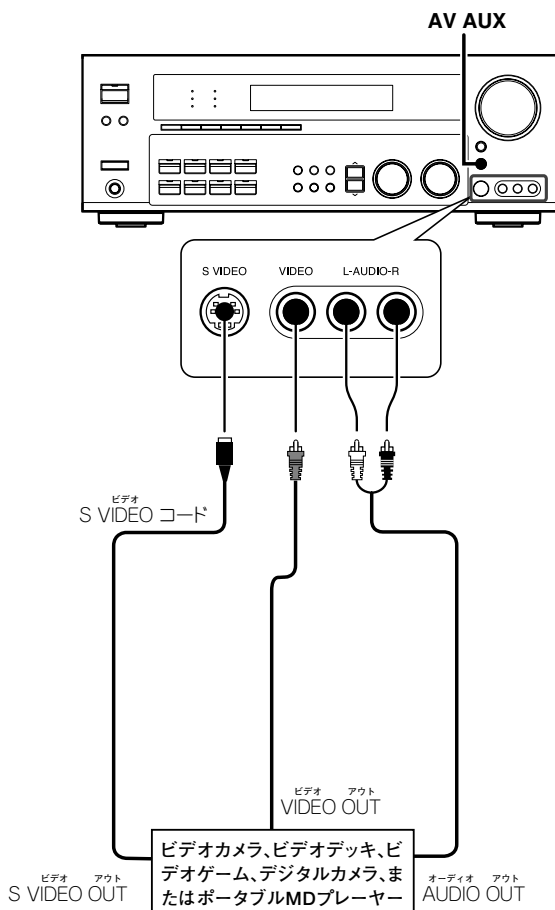
他の部屋(ROOM B)のテレビまたはスピーカーを本機に接続することができます。

マルチチャンネルソースを2チャンネルステレオに変換して他の部屋(ROOM B)のスピーカーから音を出すために、スピーカーシステムの選択は、スピーカーAとB両方ともOFFにしてください。 →29

PRE OUT の接続

本機にはPRE OUT端子が付いています。これらは色々な目的に使用することができますが、下図に例が示されているように追加のパワーアンプが必要となります。

- スピーカーコードをPRE OUT端子に接続しても、スピーカーからは音は出ません。
- PRE OUT端子を使用するときは、スピーカーシステムの選択は、スピーカーAをONにしてください。 →29
- "6ch AMP SB"を選択した場合、サラウンドバックの音声は、PRE OUT端子の SURROUND BACK L（左）からのみ出力されます。（モノラル）

本体前面のAV AUX端子への接続

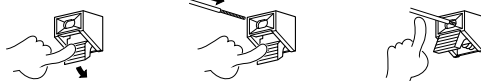
ポータブルビデオカメラ機器など通常は本機に接続してご使用にならない機器は、本体の前面にあるAV AUX端子に接続します。ポータブルビデオカメラからダビングする時などに使用すると便利です。

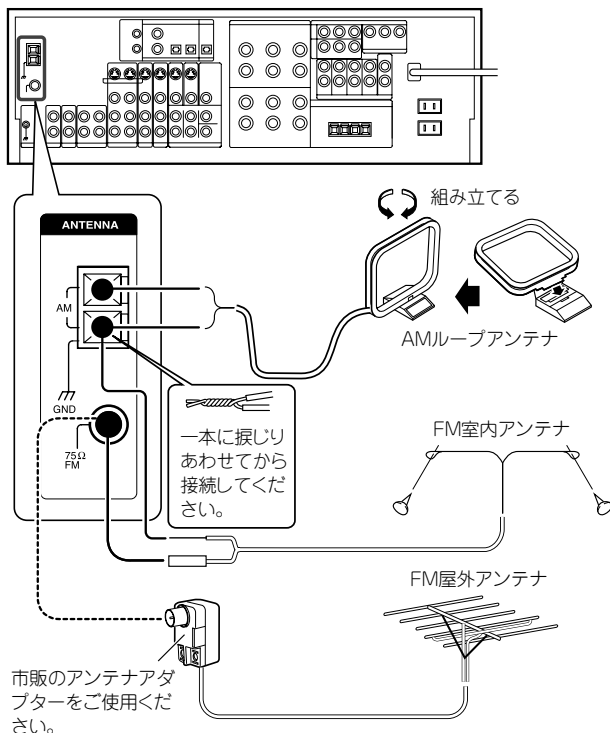
- AV AUX端子に接続されたソースを選択する場合は、AV AUXキーを押してください。 →29
- ポータブルビデオカメラのほかに、ポータブルMDプレーヤーなどのオーディオ機器も接続することができます。その場合は、AUDIO L/R端子のみ接続してください。
- S VIDEO端子付きの機器の場合は、S VIDEO接続ケーブルを用いることで、より質の高い映像が楽しめます。

アンテナの接続

⚠ 注意 *屋外アンテナ設置上のご注意*

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

AMループアンテナの接続

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番よい方向に向けます。

FM室内アンテナの接続

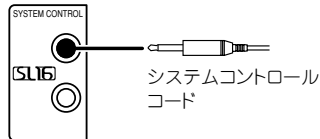
付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナの使用をお勧めします。屋外アンテナを接続する場合は、室内用アンテナは取り外してください。

FM屋外アンテナの接続

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、FM75Ω 端子に接続します。

システムコントロール接続

ケンウッドのオーディオコンポーネントシステムを接続したとき、システムコントロールコードを接続することで、便利な機器相互間のシステムコントロール動作が可能になります。

ケンウッドのシステムコントロールには、2種類のモードがあります。本機は SL16 のモードのみに対応しています。SL16 のモードに対応した機器と接続してください。

システムコントロール切り換えスイッチがある機器の場合は、SL16 モードに切り換えて接続してください。

- システムコントロールコードは、上下どちらの端子でも接続できます。

接続例：SL16 モード接続
下線部が選ばれているシステムコントロールモードを示します。

- システムコントロールを使うにはシステムコントロールコードを各機器の端子に正しく接続してください。2台以上のCDプレーヤーを接続する場合などは、CD端子につないだ1台だけがシステムコントロールできます。
- CDプレーヤー、カセットデッキには、SL16 モードに対応している機器と対応していない機器があります。対応していない機器はシステムコントロール接続しないでください。
- MDレコーダーには、システムコントロールに対応していない機器があります。これらの機器はシステムコントロール接続はできません。

ご注意
1. SL16 以外のモードとのシステム動作の組み合わせはできません。もし、このような組み合わせであった場合は、システムコントロールコードは接続しないでください。システムコントロールを接続しなくても、通常の性能、操作性が損なわれることはありません。
2. 当社指定以外の機器との接続は、故障の原因となりますのでおやめください。
3. システムコントロールプラグは根元まで差し込んでください。

システムコントロール動作について

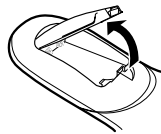
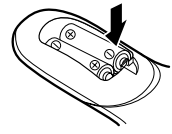
リモートコントロール
本機に付属するシステムリモコンで、ソース機器を操作することができます。

オートマチックオペレーション
ソース機器側の再生を始めると、本機の入力切換が自動的にその機器の入力切換に切り換わります。

シンクロ録音
CD、MDを録音するときに、プレーヤーの再生を始めると、連動して録音をスタートさせることができます。

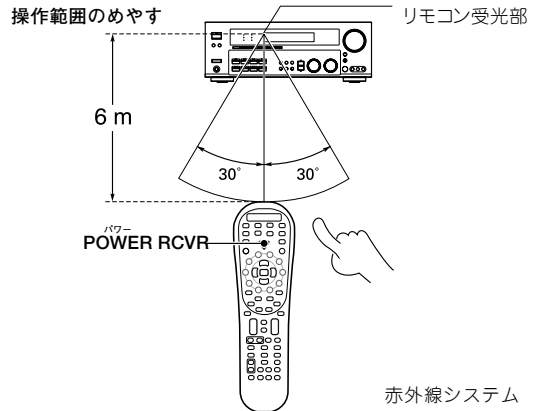
リモコンの準備

電池を入れる

❶ ふたを開ける

❷ 電池を入れる

❸ ふたを閉める

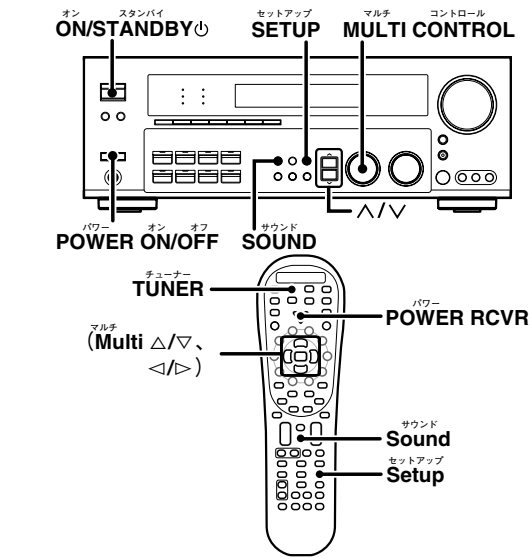
- 単3乾電池（R6）2本を極性マークにしたがって入れる。

操作のしかた

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンのPOWER（パワー） RCVRキーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。

- リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

ご注意
1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、すべて新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り換えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式など）の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

スピーカーの設定をする

接続したスピーカー（サブウーファー、フロント、センター、サラウンド）に応じて各種設定をします。

1 ***本機のPOWER ON/OFFとON/STANDBY⏻キーまたは、リモコンのPOWER RCVRキーを押して本機の電源をオンにする。***

2 ***リモコンで操作するときは、リモコンのTUNERキーを3秒以上押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。***

3 ***SETUPキーを押して、SETUPモードにする。***

サラウンドバックまたはサブウーファースピーカーのための6ch AMP設定が表示されます。

① **6ch AMP SB**：サラウンドバックスピーカーを**SURROUND BACK/SUBWOOFER**端子に接続した場合選択する。サブウーファー用の出力は、**PRE OUT**端子の**SUBWOOFER**端子から取り出せます。

② **6ch AMP SW**：サブウーファースピーカーを**SURROUND BACK/SUBWOOFER**端子に接続した場合選択する。サラウンドバック用の出力は、**PRE OUT**端子の**SURROUND BACK**端子から取り出せます。

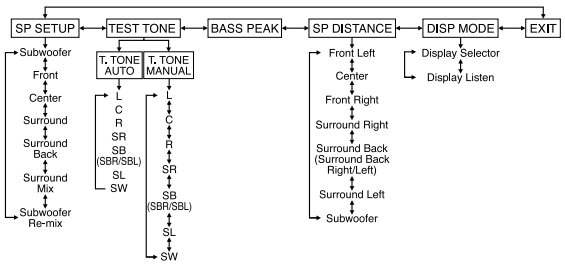
③ **6ch AMP OFF**：**SURROUND BACK/SUBWOOFER**端子にスピーカーを接続していない場合選択する。サブウーファー用の出力は、**PRE OUT**端子の**SUBWOOFER**端子から、サラウンドバック用の出力は、**PRE OUT**端子の**SURROUND BACK**端子から取り出せます。

MULTI CONTROLつまみまたは、**Multi**（△/▽）キーを使ってスピーカーを選択してください。

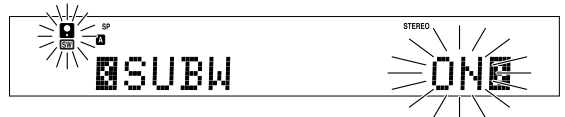
SETUPキーを押して次のセットアップに進んでください。

∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを使うと次の順で切り換わります。

① **SP SETUP**
② **TEST TONE**
③ **BASS PEAK**
④ **SP DISTANCE**
⑤ **DISP MODE**
⑥ **EXIT**

スピーカー設定の手順、は以下のようになります。

4 ***接続しているスピーカーを選ぶ。***

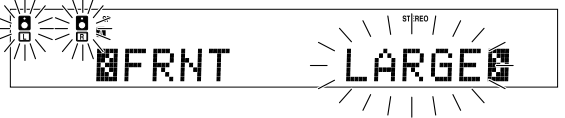
THXが承認したスピーカーを接続しているときは、NML/THXに設定します。

❶ **SP SETUPを選択してSETUPキーを押すと、サブウーファー設定表示"SUBW ON"になります。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってサブウーファーの設定をする。**

① **SUBW ON**　：サブウーファーの設定をONにするとき。
② **SUBW OFF**　：サブウーファーの設定をOFFにするとき。

- 初期設定は"SUBW ON"になっています。
- "SUBW OFF"を選び、手順❸で∧キーを押して確定した場合、フロントスピーカーは自動的に"FRNT LARGE"（ラージ）に設定され、手順❻に進みます。
- SW（サブウーファー）をOFFからONに設定後、6ch AMP設定画面が表示されサラウンドバックまたはサブウーファー端子からの出力を設定するためSW、SBまたはOFFが選択できます。

❸ **∧キーまたは、Multi（▷）キーを押して確定させる。**

- フロントスピーカーの設定表示、"FRNT"になります。

❹ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってフロントスピーカーの設定をする。**

① **FRNT LARGE**（ラージ）　：大きめのフロントスピーカーのとき。
② **FRNT NML/THX**（ノーマル）：普通のフロントスピーカーのとき。

- サブウーファーの設定をONにして、フロントスピーカーの設定を"LARGE"にしたときは、ステレオソースを再生したときにリッスンモードの設定によっては、低音はフロントスピーカーで再生し、サブウーファーから音が出ない場合があります。このような場合は、手順⓮のサブウーファーリミックスの設定をONにするとサブウーファーにも低音の信号が送られます。

❺ **∧キーまたは、Multi（▷）キーを押して確定させる。**

- センタースピーカーの設定表示、"CNTR"になります。

次頁に続く

❻ MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってセンタースピーカーの設定をする。

フロントスピーカーを“LARGE”に設定したとき

- ① **CNTR LARGE**（ラージ）　：大きめのセンタースピーカーのとき。
- ② **CNTR NML/THX**（ノーマル）：普通のセンタースピーカーのとき。
- ③ **CNTR OFF**　：センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

フロントスピーカーを“NML/THX”に設定したとき

- ① **CNTR NML/THX**：センタースピーカーの設定をONにするとき。
- ② **CNTR OFF**　：センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

❼ ∧キーまたは、Multi（▷）キーを押して確定させる。

- サラウンドスピーカーの設定表示、“SURR”になります。

❽ MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってサラウンドスピーカーの設定をする。

センタースピーカーを“LARGE”に設定したとき

- ① **SURR LARGE**（ラージ）　：大きめのサラウンドスピーカーのとき。
- ② **SURR NML/THX**（ノーマル）：普通のサラウンドスピーカーのとき。
- ③ **SURR OFF**　：サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

センタースピーカーを“LARGE”以外に設定したとき

- ① **SURR NML/THX**：サラウンドスピーカーの設定をONにするとき。
- ② **SURR OFF**　：サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

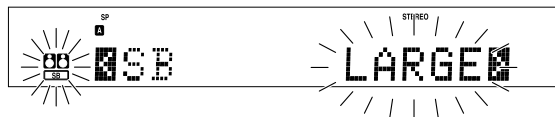
- “SURR OFF”を選び、手順❾で∧キーを押して確定した場合、手順⓮に進みます。ただし、サブウーファーの設定がOFFのときはSETUPキーを押してスピーカーのセットアップを終了し、手順**5**の各スピーカーの音量レベルを調整します。

❾ ∧キーまたは、Multi（▷）キーを押して確定させる。

- サラウンドスピーカーの設定表示、“SB”になります。

❿ MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってサラウンドバックスピーカーの設定をする。

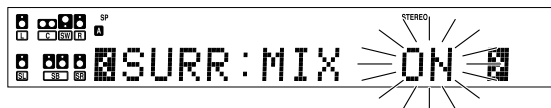
サラウンドスピーカーを“LARGE”に設定したとき

- ① **SB NML/THX**（ノーマル）：普通のサラウンドスピーカーのとき。
- ② **SB LARGE**（ラージ）　：大きめのサラウンドスピーカーのとき。
- ③ **SB OFF**　：サラウンドバックスピーカーの設OFFにするとき。

サラウンドスピーカーを“NML/THX”以外に設定したとき

- ① **SB NML/THX**：サラウンドバックスピーカーの設定をONにするとき。
- ② **SB OFF**　：サラウンドバックスピーカーの設定をOFFにするとき。

- SB（サラウンドバック）をOFFからNML/THXに設定後、6ch AMP設定画面が表示されサラウンドバックまたはサブウーファー端子からの出力を設定するためSW、SBまたはOFFが選択できます。

⓫ ∧キーまたは、Multi（▷）キーを押して確定させると“SURR:MIX”が表示されます。

- SURR:MIXをONにすると、サラウンドバック信号を持たないソースでもサラウンドチャンネル左右の音声をミックスし、サラウンドバックスピーカーから音を出すことができます。
  サラウンドスピーカーをリスニングポジション（聴く位置）の両サイドに設置している場合、SURR:MIXをONにして後方に設置したサラウンドバックスピーカーからも音を出すことによって、自然なサラウンド再生を行うことができます。
- サラウンドスピーカーの設定がOFFの時は、サラウンドミックスは設定できません。

⓬ MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使って以下を選択します。

- ① **SURR:MIX ON**：サラウンドミックスの設定をONにするとき。
- ② **SURR:MIX OFF**：サラウンドミックスの設定をOFFにするとき。

⓭ ∧キーまたは、Multi（▷）キーを押して確定させる。

- サブウーファーリミックスの設定表示、“SW RE-MIX”になります。
- サブウーファーの設定がOFFのときは,サブウーファーリミックスは設定できません。

⓮ MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってサブウーファーリミックスの設定をする。

SW RE-MIXをONにすると、スピーカーの設定に応じてサブウーファーに他のチャンネルの低音を付加したり、サブウーファーで再生する低音を他のチャンネルに付加して、低音の量感を増します。

- ① **SW RE-MIX ON**：サブウーファーリミックスの設定をONにするとき。
- ② **SW RE-MIX OFF**：サブウーファーリミックスの設定をOFFにするとき。

⓯ SETUPキーを押すとメインの設定画面に戻ります。

- 手順**5**、**6**で選ばれたスピーカーで、調節が必要なチャンネルのみ表示されます。

5 *各スピーカーの音量レベルを調節する。*

実際に聴く位置で、市販のポータブルSPL（音圧レベル）メーターを使い、メータの読み取り単位を“C”に設定し、腕をいっぱいに延ばした状態でノイズレベルの読みが75dBになるように各チャンネルの音量レベルを調節します。SPLメーターがない場合は音量レベルを0dBから調整し、各スピーカーからのレベルがほぼ同じになるようにします。

❶ ∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを使ってTEST TONEを選び、SETUPキーを押す。

❷ MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってAUTO、またはMANUAL TEST TONEを選択する。

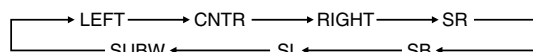
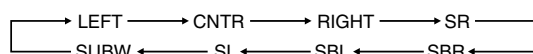
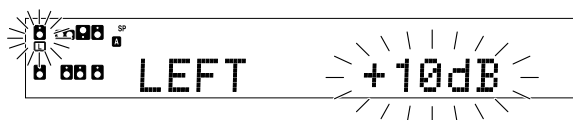
- ① **T.TONE AUTO**
- ② **T.TONE MANUAL**

SETUPキーをもう一度押すと、TEST TONEが始まります。

調節したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときにMULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使って音量レベルを調節する。

AUTOを選択すると最初に左フロントスピーカーから2.5秒間テストトーンが聞こえ、その後、以下に示される順番で各スピーカーからに2秒間ずつテストトーンが聞こえます。

6ch AMP SBを選んだとき

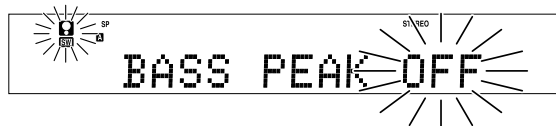
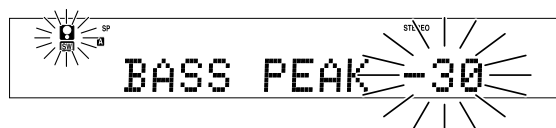
LEFT → CNTR → RIGHT → SR → SB → SL → SUBW

6ch AMP SWまたは OFF を選んだとき

テストトーン出力中のチャンネルが点灯します。

- 再生時に各スピーカーの音量レベルを変更すると、この項で設定した内容も変わります。 →40
- スピーカー設定をOFFにすると、設定していたスピーカーレベルはリセットされます。

MANUALを選択した場合、スピーカーチャンネルを選ぶごとに∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを押します。

❸ **SETUPキーをもう一度押す。**
- テストトーンが止まり、メインの設定画面に戻ります。

6 バスピーク(BASS PEAK)レベルの調整。

サブウーファースピーカーを強いバス（低音）出力によるダメージから守るため、バス出力に制限をかけることができます。制限をかけた後はボリュームを最高に上げてもバス出力は制限値を越えません。サブウーファースピーカーがOFFの場合はこの制限は左右のフロントスピーカー出力に加えられます。

❶ **∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを使ってBASS PEAKを選び、SETUPキーを押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使って制限値を-30dBから徐々に上げ、テストトーンが歪み始めるところで設定する。**
- テストトーンは、MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを操作すると出ます。
- テストトーンは、サブウーファーの再生限界を確認するために大きな音量で再生されます。
- 調整可能範囲は-30dB〜0dBそしてOFFです。

❸ **SETUPキーをもう一度押して確定させる。**

7 スピーカーまでの距離を入力する。

❶ **∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを使って設定メニューのSP DISTANCEを選び、SETUPキーを押す。**

❷ **リスニングポジション（聴く位置）から各スピーカーまでの距離をはかる。**

メモしておきましょう。

フロント左スピーカーまで(L)	______ メートル
センタースピーカーまで(C)	______ メートル
フロント右スピーカーまで(R)	______ メートル
サラウンド右スピーカーまで(SR)	______ メートル
サラウンドバック右スピーカーまで(SBR)	______ メートル
サラウンドバック左スピーカーまで(SBL)	______ メートル
サラウンド左スピーカーまで(SL)	______ メートル
サブウーファーまで(SW)	______ メートル

❸ **∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを使ってスピーカーを選び、MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってフロントスピーカーからの距離を設定する。**

調整するスピーカーが点滅します。

フィート表示　　メートル表示

- 0.3m〜9.0mまで、0.3mごとに調節できます。

❹ **手順❸を繰り返して各スピーカーまでの距離を入力する。**

❺ **SETUPキーをもう一度押すと、メインの設定画面に戻ります。**
- 選ばれたスピーカーが表示部に表示されます。正しく選ばれているかを確認してください。

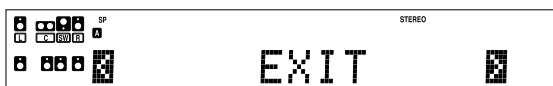
8 ディスプレイモードを選ぶ。

❶ **∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを使って DISP MODE を選び、SETUPキーを押す。**

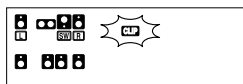
❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使って表示モードを選択する。**

① **DISP SELECTOR**：選ばれている入力ソースを表示します。
② **DISP LISTEN**：選ばれているリッスンモードを表示します。

❸ **SETUPキーをもう一度押して確定させる。**

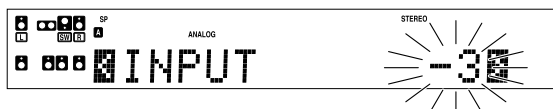
❹ **∧キーまたは、Multi（▷）キーを使ってEXITを選ぶ。**

❺ **SETUPキーを押すと設定モードが終了します。**

インプットレベルの調整（アナログ再生時のみ）

アナログソースから入力されている信号が大きすぎるとき、CLIP表示が点滅します。インプットレベルを調整してください。

❶ **インプットセレクターキーで調整したいソースを選ぶ。**

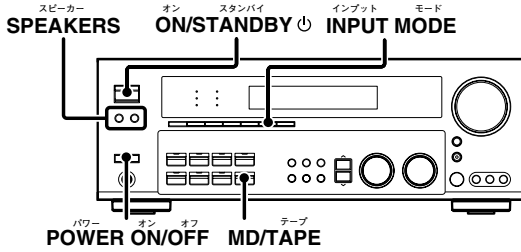
- それぞれの入力ソースに異なる入力レベルを記憶することができます。

❷ **SOUNDキーと∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを繰り返し押して“INPUT”表示にする。**

❸ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってインプットレベルを調整する。**

- 調整モードは約8秒間表示されます。
- インプットレベルは 0dB、−3dB、−6dBの3段階で調整できます（初期設定は0dB）。

❹ **SOUNDキーをもう一度押して、入力表示に戻す。**

再生をする前に

再生をする前に必要な準備をしておきましょう。

電源の入れかた

❶ **関連機器を接続し、電源をオンにする。**

❷ **POWER ON/OFFとON/STANDBY ⏻キーを押して本機の電源をオンにする。**

インプットモードの選択

CD/DVD、VIDEO 2、VIDEO 3、またはDVD/6CH INPUT端子に接続した機器で再生するときは、インプットモードが接続した機器の再生する音声信号（デジタル入力またはアナログ入力）に合っていることを確認してください。 ➝13

MD/TAPE の選択

MD/TAPE端子に接続した機器に入力の名称を合わせてください。工場出荷時は、“TAPE” になっていますので、“MD” に変更したいときは以下の操作を行ってください。

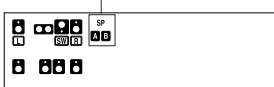
MD/TAPEキーを2秒以上押し続ける。

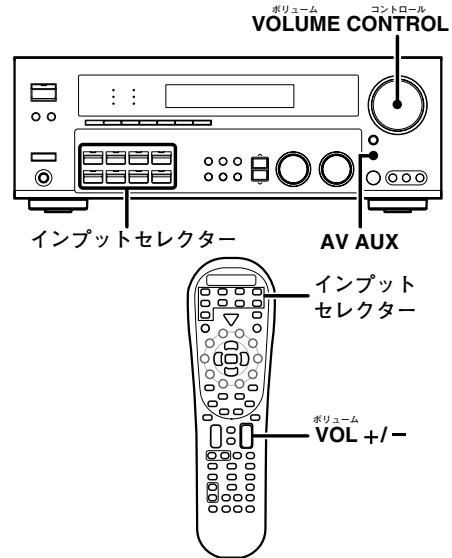
- 入力表示が “MD” にかわります。
- 元の表示に戻したいときは、この操作を繰り返してください。

スピーカーシステムの選択

スピーカーシステムを選択するためSPEAKERS AまたはSPEAKERS Bキーを押してください。

A ON	：	背面の**SPEAKERS A**端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。
B ON	：	背面の**SPEAKERS B**端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。サブウーファーからは、音は出力されません。
A+B ON	：	背面の**SPEAKERS A**および**B**端子に接続されたスピーカーから音声が出力されます。
A+B OFF	：	スピーカーから音声は出力されません。すべての再生モードでヘッドホンを使用する際に設定してください。入力信号に応じて表示状態がかわります。

使用するスピーカーに対応する表示が点灯します。

- 入力ソースに“DVD/6CH”が選択され、かつインプットモードに“6CH INPUT”が選ばれている場合、スピーカー Aが自動的に選択されます。

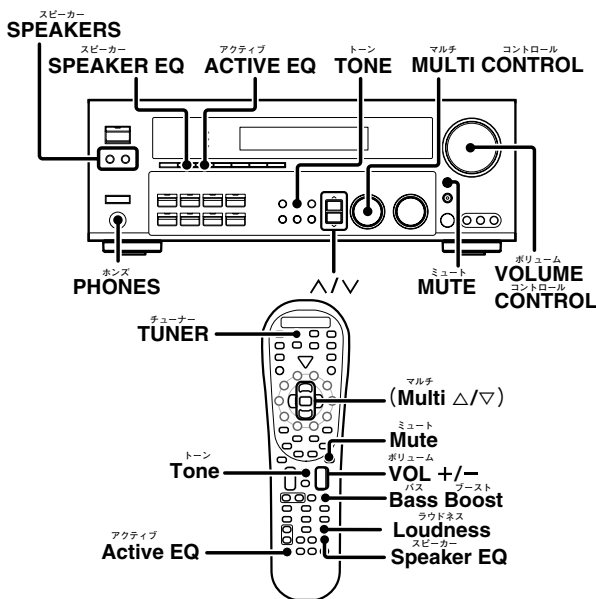
普通の再生

1 ***インプットセレクターとAV AUXキーで聴きたいソースを選ぶ。***

それぞれのキーを使い入力ソースを選択してください。

① **“DVD/6CH”**
② **“CD/DVD”**
③ **“PHONO”**
④ **“TUNER”（FM/AM放送受信）**
⑤ **“VIDEO1”**
⑥ **“VIDEO2”**
⑦ **“VIDEO3”**
⑧ **“MD/TAPE”**
⑨ **“AV AUX”**

2 ***選んだソースを再生する。***

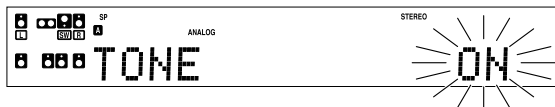
3 ***VOLUME CONTROLつまみ、またはVOL ＋/－ キーで音量を調節する。***

音の調節のしかた

トーンレベルを設定する

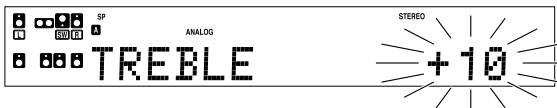
トーンレベルは、レシーバーがPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつ“THX OFF”のときに設定できます。

❶ **リモコンで操作するときは、リモコンのTUNERキーを3秒以上押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **TONEキーを押して、トーンレベル設定モードにする。**

❸ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi(△/▽) キーを使ってON/OFFを選択する。**

❹ **TONE ONを選択してもう一度TONEキーを押すと、次の順番で切り換わります。**

BASS ：バス(低音)レベルの設定。
TREBLE：トレブル(高音)レベルの設定。

❺ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi(△/▽) キーを使ってトーンレベルを設定する。**

- バスとトレブルのレベルは−10から＋10の範囲で2ステップごとに調節できます。
- 設定終了後約8秒間過ぎるとトーンレベル設定モードは自動的に終了します。

バスブースト機能(リモコンのみ)

バスブースト機能は、レシーバーがPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつ“THX OFF”のときに使えます。

Bass Boostキーを押す。

- バス(低音)レベルが最大値(＋10)に設定されます。
- トーンレベル設定モード、または38〜42ページで説明されているモードである場合、**Bass Boost**は使えません。

もとの状態にもどすには

もう一度Bass Boostキーを押します。

ラウドネス機能(リモコンのみ)

ラウドネス機能はボリュームが低いとき有効で、低音と高音のレベルを高くすることで、よりクリアーな音を楽しめます。この機能はPCMステレオモードかアナログステレオモードになっていて、かつ“THX OFF”のときに使えます。

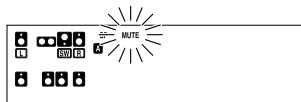
Loudnessキーを押してLOUDNESS設定をONにする。

解除するには

もう一度Loudnessキーを押して “LOUDNESS” 表示を消灯させます。

一時的に音を消す

MUTEキーを使ってスピーカーから出る音を消すことができます。

MUTEキーを押す。

解除するには

もう一度MUTEキーを押して “MUTE” 表示を消灯させます。

- **VOLUME CONTROL**つまみを回した場合、または**VOL +/−**キーを押した場合はMUTEは解除されます。

ACTIVE EQモード

ドルビーデジタルおよびDTS再生、そしてAAC、PCMおよび アナログモードにおいてACTIVE EQ機能をONにするとより印象的な音声効果を楽しむことができます。

Active EQキーを押すと以下のように切り換わります。

- ① **ACTIVE EQ MUSIC**：音楽を聴く際に効果があります。（**ACTIVE EQ**表示が点灯）
- ② **ACTIVE EQ CINEMA**：映画を見る際に効果があります。（**ACTIVE EQ**表示が点灯）
- ③ **ACTIVE EQ TV**：テレビを見る際に効果があります。（**ACTIVE EQ**表示が点灯）
- ④ **ACTIVE EQ OFF**：ACTIVE EQ機能が解除されます。（**ACTIVE EQ**表示が消灯）

- ディスプレイ上で“ACTIVE EQ”が右から左へスクロールします。
- ACTIVE EQおよびSPEAKER EQがオフの状態でACTIVE EQ (MUSIC)をオンにすると、自動的にSPEAKER EQ (SMALL)がオンになります。
- ACTIVE EQ機能はREC MODE、DTS-ES MATRIXがオンのとき、または96kHz リニアPCMを再生しているときには使用できません。

SPEAKER EQモード

組み合わされるスピーカーの特性に合った調節を行う機能で、スピーカーのサイズに合った特性にすることで、特にミュージックソースを聞くときなど、そのソースの原音に近い特性を引き出すことができます。小型スピーカーなど、スピーカーの大きさにかかわらず、臨場感のあるサウンドが楽しめます。

Speaker EQキーを押と以下のように切り換わります。

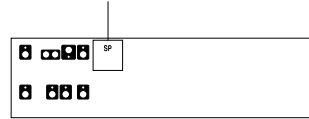
- ① **SPEAKER EQ SMALL**：小口径のスピーカーを選択する。（**SPEAKER EQ**表示が点灯）
- ② **SPEAKER EQ NORMAL**：標準口径のスピーカーを選択する。（**SPEAKER EQ**表示が点灯）
- ③ **SPEAKER EQ LARGE**：大口径のスピーカーを選択する。（**SPEAKER EQ**表示が点灯）
- ④ **SPEAKER EQ OFF**：SPEAKER EQ機能が解除されます。（**SPEAKER EQ**表示が消灯）

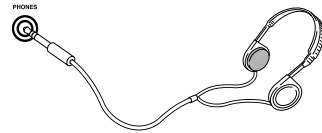
- ディスプレイ上で“SPEAKER EQ”が右から左へスクロールします。
- ACTIVE EQがオンのときは、SPEAKER EQをオフにすることはできません。
- SPEAKER EQ機能はREC MODE、DTS-ES MATRIXがオンのとき、または96kHz リニアPCMを再生しているときには使用できません。

ヘッドホンで聴く

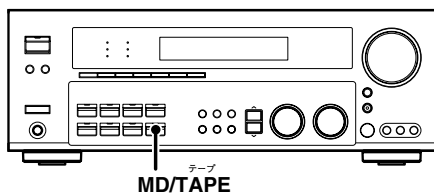
❶ SPEAKERS AおよびBキーを押して、スピーカーへの出力を切ります。

- スピーカーへの出力を切ると、スピーカー表示は消灯します。

スピーカー表示の消灯を確認します。

- サラウンドモード時にスピーカーをオフにすると、サラウンドモードは解除され、ステレオ再生になります。

❷ ヘッドホンをPHONES端子につなぐ。

❸ VOLUME CONTROLつまみ、またはVOL ＋/－キーで音量を調節する。

録音（録画）のしかた

録音のしかた（アナログソース）

音楽ソースを録音する

❶ インプットセレクターキーで録音するソース（“MD/TAPE” 以外）を選ぶ。

❷ カセットデッキ、またはMDレコーダーを録音待機状態にする。

❸ ソースを再生し、録音を開始する。

録画のしかた

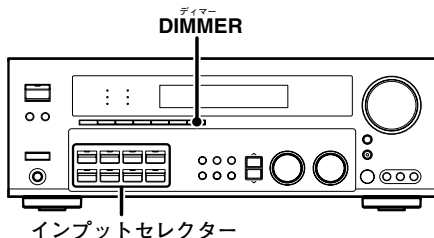
❶ インプットセレクターキーで録画するソース（“VIDEO 1” 以外）を選ぶ。

❷ VIDEO 1端子に接続したビデオデッキを録画待機状態にする。
- デジタルソースを録画する場合は次の“録音のしかた（デジタルソース）”を見てください。

❸ ソースを再生し、録画を開始する。
- 録画するビデオソースによってはコピープロテクトが働き、録画できないことがあります。 →53

録音のしかた（デジタルソース）

デジタル入力信号を録音するためには通常AUTO REC（自動録音）モードを使用します。AUTO REC モードで録音中にデジタル入力ソースが切りかわった場合は入力ソースがとぎれることがあります。

AUTO REC（またはMANUAL REC）モードで録音する

❶ インプットセレクターキーで録音するソース（CD/DVD、DVD/6CH、VIDEO 2、VIDEO 3）を選ぶ。

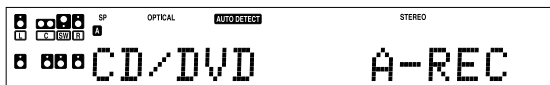
❷ カセットデッキ、またはMDレコーダーを録音待機状態にする。

❸ デジタル入力中にDIMMERキーを2秒以上押して、AUTO RECまたはMANUAL RECモードを選ぶ。

① RECモードオフ ： オフ
② AUTO RECモード
③ MANUAL RECモード

②③：デジタル信号（DTS、ドルビーデジタル、AAC、PCM）はステレオ信号にダウンミックスしてアナログ録音端子（REC OUT）から出力します。

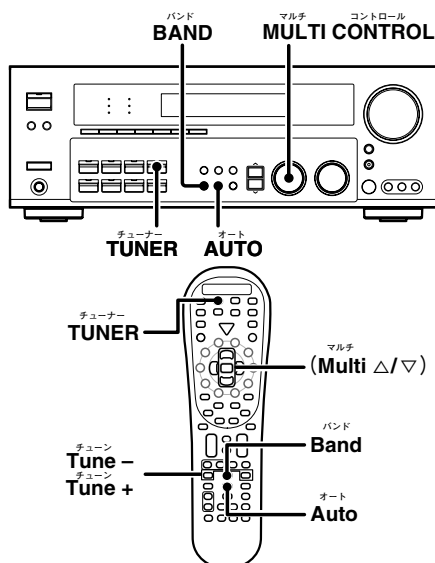
MANUAL RECモードを選んだときには、入力されている信号はステレオ信号にダウンミックスして出力しますが、他のデジタル信号に切りかわった場合は出力しません。AUTO RECモードを選んだときには、デジタル信号が切りかわっても、信号を検出してステレオ信号にダウンミックスして出力します。

AUTO REC モード

MANUAL REC モード

❹ ソースを再生し、録音を開始する。
- 音声が出力されないときはDIMMERキーを押します。

放送を聴く

放送局を最大40局まで記憶できます。ワンタッチで受信することもできます。

放送を受信する

1 *TUNERキーを押す。*

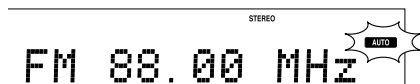
2 *BANDキーで放送バンドを選ぶ。*

押すたびにバンドが切り換わります。

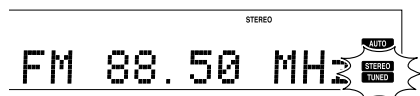
3 *AUTOキーで選局方法を選ぶ。*

押すたびに以下のように選局方法が切り換わります。

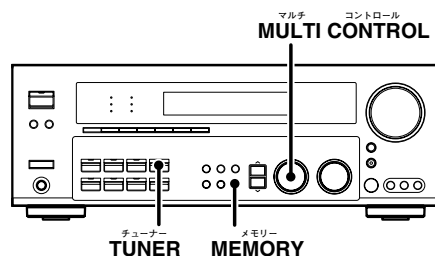
① オート選局　　：(AUTO表示が点灯)
② マニュアル選局：(AUTO表示が消灯)

オート選局にするとAUTO表示が点灯します。

- 通常は、"AUTO"(オート選局)にしておきます。電波が弱く、雑音が多いときは、マニュアル選局にします。(マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。)

4 *MULTI CONTROLつまみ、Multi (△/▽) キーまたは、Tune –/ +キーで放送局を選ぶ。*

ステレオ番組のとき、STEREO表示が点灯します。

受信すると、TUNED表示が点灯します。

オート選局のとき　　：自動的に次の放送局を受信します。
マニュアル選局のとき：受信するまで、MULTI CONTROLつまみを回す、またはMulti(△/▽) キーを押します。

放送局を記憶させる

1 *記憶させたい放送局を受信する。*

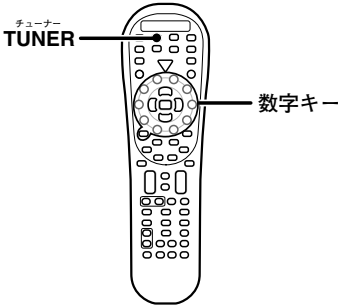
2 *受信中にMEMORYキーを押す。*

5秒以内に手順**3**へ進む。
(5秒以上たった場合は、もう一度MEMORYキーを押します。)

3 *MULTI CONTROLつまみまたは、Multi (△/▽) キーを使って1～40のプリセット番号を選ぶ。*

4 *MEMORYキーをもう一度押して確定させる。*

- 手順**1**、**2**、**3**、**4**を繰り返して、それぞれの放送局を記憶させます。
- 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。

記憶させた放送局を受信する

1 *TUNERキーを押す。*

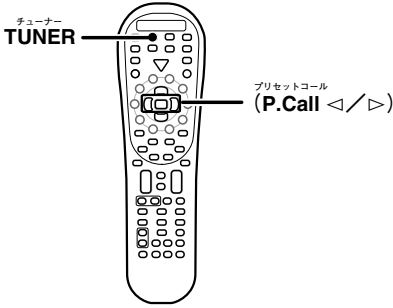
2 *数字キーで目的の放送局のプリセット番号を押す（最大"40"）。*

数字キーを押す順序は…

"15" なら [+10], [5]

"20" なら [+10], [+10], [0]

- 10の桁を押し間違えたときは、**+10**キーを数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。

記憶させた放送局を順に聴く（P.Call）

1 *TUNERキーを押す。*

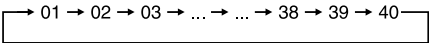
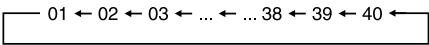
2 *P.Call ◁/▷ キーを使って選局する。*

- キーを押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

P.Call ▷キーを押すと次のように切り換わります。

→ 01 → 02 → 03 → ... → ... → 38 → 39 → 40 →（01に戻る）

P.Call ◁キーを押すと次のように切り換わります。

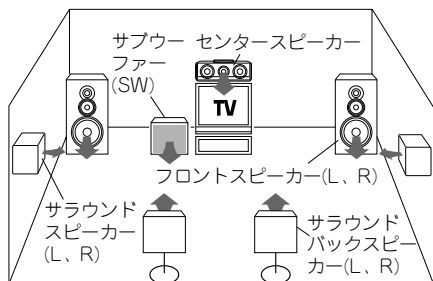
01 ← 02 ← 03 ← ... ← ... 38 ← 39 ← 40 ←（01から40に戻る）

▷キーまたは◁キーを押したままにすると、約0.5秒間隔で、放送局をスキップします。

臨場感を楽しむ

本機のリッスンモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。
サラウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、スピーカーの設定を行ってください。 →25

サラウンドモードの種類

マルチチャンネルサラウンド（SRS Circle Surround II™）

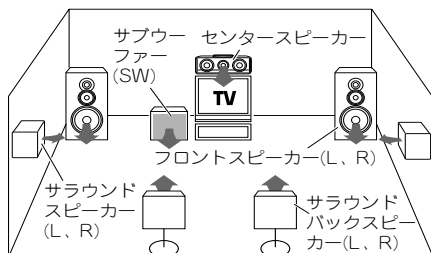
SRS Circle SurroundII™はCS-6.1™によりCS-5.1™の機能を改善し、ステレオソースまたは在来のサラウンド化されたビデオソースを多重チャンネルサラウンドチャンネルでの再生を可能にしました。すでに多重スピーカーによりドルビーデジタルサウンド/DTS多重チャンネルサウンドを楽しんでいると思いますが、これからはオーディオCD、MD、放送およびホームシアターを多重スピーカーで楽しむことができます。SRS Circle Surround IIにより新しいタイプの音響を発見することができます。
CSシステムにより比較的狭い部屋に多重チャンネル再生装置（スピーカー）を設置することができます。このシステムにより聴取者が演奏者の間にいるような環境を作りだし、さらにハイファイの音響、そしてサラウンド化された在来ビデオの品質を著しく向上させます。
CSデコーダーはSRS Technologies FocusとTruBassの機能を持ち、Focusは電子的に音響ステージをスピーカー位置から適切な位置に持ち上げます。TruBassはサブウーファーを使用することなく小口径のスピーカーで深く、重厚な低音を作り出します。

Circle Surround II、SRSと(●)記号はSRS Labs, Inc. の商標です。Circle Surround II は SRS Labs, Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

「DTS」、「DTS-ES Extended Surround」及び「Neo:6」はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

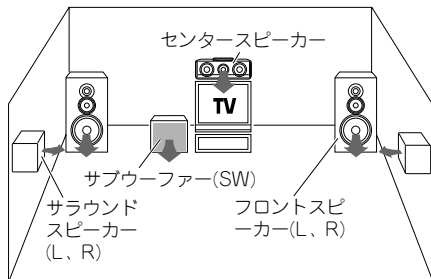
ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。DOLBY、PRO LOGIC、SURROUND EX及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

Lucasfilm及びTHXは、Lucasfilm, Ltd.の商標または登録商標です。「Surround EX」はTHXとドルビーラボラトリーズの技術により共同開発されました。「Surround EX」はドルビーラボラトリーズの登録商標であり、版権が所有されています。これらの商標は許可のもとに使用されています。

DTS-ES

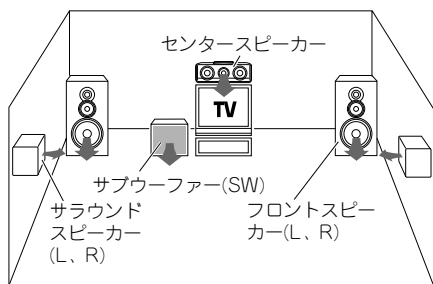
DTS-ES（Extended Surround）は　従来の5.1chのサラウンドを発展させ、バックサラウンドチャンネルが加わった6.1chサラウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD, CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したバックサラウンドを持つDTS-ES Discrete 6.1 と　マトリクス技術を駆使し左右のサラウンドチャンネルに埋め込まれたバックサラウンドを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたバックサラウンドチャンネルによる6.1chサラウンド再生は　後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。DTS-ES 技術を使って記録されたプログラムソースには Discrete と Matrix のモードを動作させる情報もあわせて記録されていて、この製品は自動的にモードを選択します。
NEO:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6チャンネルサラウンドを楽しむことが可能です。NEO:6には映画を楽しむための "CINEMA" モードと音楽を楽しむための "MUSIC" モードの2つのモードがあります。

*LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
DTSには.1またはLFEチャンネルがあります。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに "**LFE**" 表示が点灯します。

DSPモード

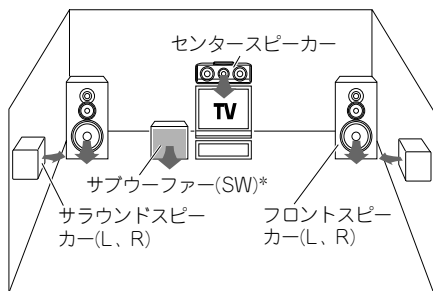
DSP（デジタルシグナルプロセッサー）サラウンドモードは、ソースに合わせて劇場やコンサートホールなどの雰囲気を選択することができます。CDプレーヤーやテレビ、FMラジオなどのステレオ信号を入力しているときに有効です。
コンサートやスポーツなどをよりいっそうお楽しみいただけます。

DSPについて

通常音質は周囲の環境、特に残響音によって左右されます。DSPは入力ソースに、その音質をそこなわず、コンサートホールなどの残響音を加えるものです。

Dolby PRO LOGIC II

この新しいサラウンドシステムは、特に空間的な広がりや指向性、音の明瞭さに重点をおいて設計されています（DOLBY SURROUNDマークのあるビデオやレーザーディスクソフト等）。すぐれたフィードバックロジック設計を内蔵し、サラウンドやステレオのマトリックスデコーディング、全帯域サラウンド出力が特長です。本機にプログラムされているPRO LOGIC IIモードは、MOVIE、MUSIC、PRO LOGICの3種類です。PRO LOGIC IIのMOVIEモードには、計算された質の高いサラウンドサウンドを再生するようプログラムされています。一方MUSICモードはサウンド空間を好みに合わせて最善の状態に調整できるよう、「Dimension」「Center Width」「Panorama」モードといったコントローラが用意されています。「Dimension」はサウンド空間の状態を前後の方向へ調整し、「Center Width」は左右およびセンタースピーカーのバランスを調整します。「Panorama」はサラウンドスピーカーを含めて前面のステレオ感を大きく拡大し、部屋全体を使って「音に包まれる」ような感覚を味わうことができます。

Dolby Digital

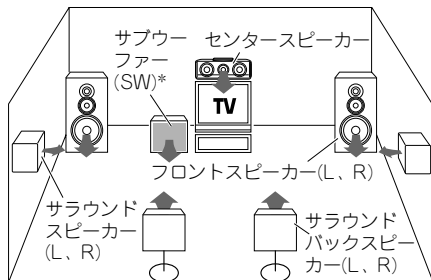
ドルビーデジタルサラウンドモードでは、ドルビーデジタルプログラムソース（DOLBY DIGITALマークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなど）からの5.1チャンネルのデジタル入力を、デジタルサラウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサラウンドと比べて、ドルビーデジタルモードは、音質、空間的な広がり、そしてダイナミックレンジの面で、はるかに優れた効果を演出します。

ご注意
5.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー（左右）、センタースピーカー、サラウンドスピーカー（左右）、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルやドルビープロロジックがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。

*このモードではオプション

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに“LFE”表示が点灯します。
ドルビーデジタルサウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。

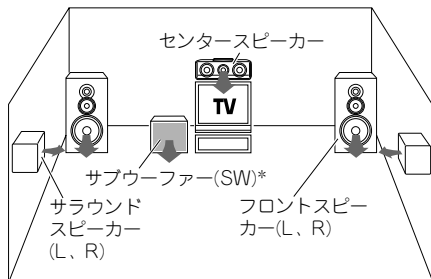
Dolby Digital EX

Dolby Digital EXはDolby Digitalの延長線上の技術です。Dolby Digital EXは6.1チャンネルのソースから各チャンネルが音声帯域全体をカバーする6つの出力チャンネルを再生します。これはマトリクスデコーダーを使い2つのサラウンドチャンネルから3つのサラウンドチャンネルをとりだすことにより実現されます。各サラウンドチャンネルはサラウンドレフト、サラウンドライトおよびサラウンドバックでそれぞれのスピーカー群を駆動します。背後にサラウンドバックスピーカーを置くことを想像してみて下さい。これにより音に包まれる、または飛び回る音を再現することができ、より自然な音響効果を楽しむことができます。Dolby Digital EXはDolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックの再生に適しています。Dolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックはDolby Digital EXを作動させるためのフラッグ（符合）もあわせて録音されていますが、2001年以前に発売されたCD,DVDまたはLDはこのフラッグが録音されていないため手動でリッスンモードを設定しなければならないものもあります。

ご注意
6.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー（左右）、センタースピーカー、サラウンドスピーカー（左右）、サラウンドバックスピーカー、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルサラウンドがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。

*このモードではオプション

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに“LFE”表示が点灯します。ドルビーデジタルサウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。

DVD6チャンネルモード

お手持ちのDVDプレーヤーがDVD6チャンネル出力に対応している場合は、DVD6チャンネル接続をすることによって、より効果的なサラウンドサウンドを楽しみいただけます。

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。

THX

映画のサウンドトラックはダビングステージと呼ばれる特別な映画館で、同じような装置および環境の映画館で再生されることを目的としてミキシングされます。同じサウンドトラックがLD、ビデオテープ、DVD等に録音されますが、ホームシアター環境に適するように変更されていません。
THXの技術者はホームシアターで発生する音色および空間的な差異を最小にすることで、映画館でのサウンドを正確にホームシアターで再現できる技術を開発し、特許をとりました。映画館で再生することを意図とした映画を見ている場合はTHXを起動して下さい。本機のTHX表示が点灯すると、次のTHXの機能が映画再生モード（例：Dolby Digital+THX、DTS+THX、THX Surround EX他）で作動します。

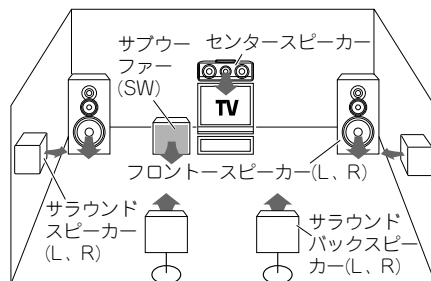
Re-Equalization (Re-EQ)
映画のサウンドトラックは広い映画館で専用のシステムを使って再生する目的で録音されているため、家庭用の機器で再生すると耳障りになります。Re-Equalizationは、ご家庭で映画のサウンドトラックを楽しむときに、この耳障りな音を調整し、ご家庭の環境に合わせます。

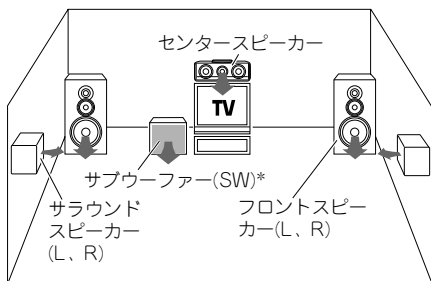
Timbre Matching
人の耳は、音のくる方向によって音に対する知覚が変わります。映画館では多数のサラウンドスピーカーを使っているので音に包まれますが、ホームシアターでは2台のサラウンドスピーカーしかありません。Timbre Matching機能はサラウンドスピーカーに送られる信号にフィルターをかけ、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの音色特性を合わせることにより、フロントスピーカーからサラウンドスピーカーへの音の動きをスムーズにします。

Adaptive Decorrelation
映画館では多数のサラウンドスピーカーによって音に包まれる体験ができますが、ホームシアターでは通常2台のサラウンドスピーカーしかありません。2台のサラウンドスピーカーでは
音はヘッドフォーンで聴くように聞こえ、音の広がり、および音に包まれることはできません。サラウンドスピーカーからの音はサラウンドスピーカー間の中間位置から離れると、近くのスピーカーの音にに吸収されてしまい聞き分けることができなくなります。Adaptive Decorrelationは他のサラウンドチャンネルの音との時間軸と位相を少し変化させます。これにより聴く位置が広がり、2台のサラウンドスピーカーで映画館と同じような音の広がり楽しめます。

THX Select
THX Selectのロゴが付いている全てのホームシアター用の機器は、上記のすべての機能を備え、厳格な品質検査および性能検査を受けています。検査は高品質を維持するためにデジタルおよびアナログ領域の数百の項目に渡り、お客様がTHX Selectのロゴが付いている機器を購入後の長い期間に渡りその性能を保証します。このようにTHX Selectのロゴが付いている機器はプリアンプ、パワーアンプを含む、広範囲にわたる厳格な検査を受けています。

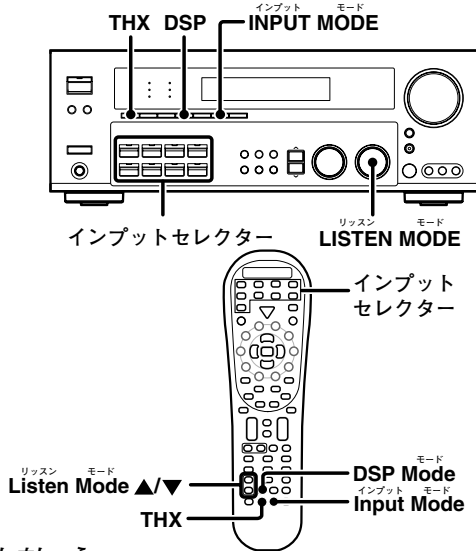
THX Surround EXモード

THX Surround EX-Dolby Digital Surround EXはドルビーラボラトリーとルーカスフィルムのTHX部門が共同で開発した技術です。
映画館ではDolby Digital Surround EX技術を使いミキシングの際に追加されたチャンネルを再生することができます。このチャンネルはサラウンドバックと呼ばれ、現在の左右およびセンターのフロントスピーカー、左右のサラウンドスピーカーおよびサブウーファーチャンネルに加えて、サウンドトラックを楽しむ人の後ろにスピーカーを置きます。この追加されたチャンネルはサウンドトラックを聞く人に、より繊細な後方サウンドイメージを与えることができ、以前に経験したことが無いような深く、広がりのあるサウンドを楽しむことができます。
Dolby Digital Surround EX技術を使って制作された映画が一般消費者市場で販売される場合にはDolby Digital Surround EXのロゴがパッケージに付いています。この技術を使って制作された映画の一覧表はドルビーラボラトリーのウェブサイトhttp://www.dolby.comで見ることができます。
THX Surround EXのロゴの付いているA/Vレシーバー、およびコントローラーだけがTHX Surround EXモードで、この新技術を家庭で忠実に再生することができます。
本機はDolby Digital Surround EXでエンコードされていない5.1チャンネルのサウンドをTHX Surround EXモードで再生することができます。このような場合は、サラウンドバックチャンネルは再生するプログラムに左右され、サウンドトラック、または個人差によりあまり好ましくないサウンドになることがあります。

AACマルチチャンネルモード

BSデジタル放送のマルチチャンネル音声フォーマットであるAAC方式（Advanced Audio Coding）に対応。BSデジタル放送で配信されるマルチチャンネルの映画などを最大5.1チャンネルの臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。

サラウンド再生

DTSリッスンモードはDTSマークの付いたCD、DVDまたはLDのサウンドソースを再生できます。DOLBY DIGITALリッスンモードは DOLBY DIGITAL マークの付いたDVDまたはLDの再生およびドルビーデジタルフォーマットのデジタル信号を再生するときに使います。DOLBY PRO LOGICリッスンモードは DOLBY SURROUND マークの付いたビデオDVDまたはLDを再生する時に使用できます。AACリッスンモードはBSデジタル放送のAACデジタル信号を再生するときに使います。

SRSサークルサラウンド(CSII)リッスンモードはステレオソースをマルチチャンネルのサラウンドサウンドとして楽しめます。

準備しましょう

- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする(「スピーカーの設定をする」)。 →25
- **インプットセレクター**キーで再生したい入力ソースを選ぶ。
- **INPUT MODE**キーで、再生したいソースのインプットモード(アナログまたはデジタル)を選ぶ。 →13
- インプットモードをアナログに設定するとDTSソースを再生したときにノイズがでることがあります。

1 ***ビデオソフトなどを再生する。***

2 ***LISTEN MODEつまみまたはListen Mode ▲/▼キーでリッスンモードを選ぶ。***

リッスンモードの設定は、それぞれの入力で独立して記憶しています。インプットモードがフルオートに設定されていると(**AUTO DETECT**表示が点灯)、入力信号のタイプやスピーカー設定の内容に合うリッスンモードが自動的に選ばれます。

LISTEN MODEつまみを回すたびに、またはListen Mode ▲/▼キーを押すたびに以下のように設定がかわります。

このとき、以下のリッスンモードの中から、現在の入力信号の種類やスピーカーの設定で再生できるモードのみが選べます。

Dolby Digital Surround EX対応ディスクについて:

Dolby Digital Surround EX対応ディスクには識別信号が記録されています。本機のインプットモードの設定(→13)でFULL AUTOを選んだときには、そのディスクの識別信号によりリッスンモードをDOLBY D EX(Dolby Digital EXモード)に切り換えて再生します。まれに対応ディスクであっても、この識別信号が記録されていないディスクがあります。ディスクのパッケージやレーベルに"Surround EX"、"サラウンドEX"等の表記があれば、識別信号のないディスクでもリッスンモードをDOLBY D EXに切り換えると、Dolby Digital EXモードで再生できます。

DOLBY DIGITALまたはDOLBY DIGITAL EX信号を入力しているとき:

① **DOLBY DIGITAL** : DOLBY DIGITALサラウンド
(**DOLBY DIGITAL**表示が点灯)

② **DOLBY D EX** : DOLBY DIGITAL EXサラウンド
(**DOLBY DIGITAL**表示が点灯)

③ **PL II MOVIE** : PRO LOGIC IIサラウンド MOVIEモード*
(**DOLBY DIGITAL**と**PRO LOGIC II**表示が点灯)

④ **PL II MUSIC** : PRO LOGIC IIサラウンド MUSICモード*
(**DOLBY DIGITAL**と**PRO LOGIC II**表示が点灯)

⑤ **PRO LOGIC** : PRO LOGIC IIサラウンド PRO LOGICモード*
(**DOLBY DIGITAL**と**PRO LOGIC II**表示が点灯)

⑥ **STEREO** : 通常のステレオ再生
(**DOLBY DIGITAL**と**STEREO**表示が点灯)

(*2チャンネルステレオ信号のときにのみ選択できます)

DOLBY DIGITALを選んだとき
DOLBY DIGITAL の文字が表示されます。

AUTO DETECT　DOLBY DIGITAL
DOLBY DIGITAL

DTSまたはDTS-ES(マトリックスまたはディスクリート)信号を入力しているとき:

① **DTS** : **DTS**表示が点灯
② **DTS-ES MATRIX** : **DTS**と**MATRIX**表示が点灯
③ **DTS-ES DISCRETE** : **DTS**と**DISCRETE**表示が点灯
④ **STEREO** : **DTS**と**STEREO**表示が点灯

AAC信号を入力しているとき:

① **AAC**

② **PL II MOVIE** :PRO LOGIC IIサラウンドMOVIEモード *
(**PRO LOGIC**表示が点灯)

③ **PL II MUSIC** :PRO LOGIC IIサラウンドMUSICモード *
(**PRO LOGIC**表示が点灯)

④ **PRO LOGIC** :PRO LOGIC IIサラウンドPRO LOGICモード *
(**PRO LOGIC**表示が点灯)

⑤ **STEREO** :通常のステレオ再生。
(**STEREO**表示が点灯)

(* AACステレオ放送のときにのみ選択できます)

二重音声放送の主音声/副音声の切り換えは、"主音声/副音声の切り換え"をご覧ください。 →40

DOLBY DIGITAL、DTSまたはAAC以外のアナログ信号またはデジタル信号のとき:

① **PL II MOVIE** :PRO LOGIC IIサラウンドMOVIEモード。
(**PRO LOGIC**表示が点灯)

② **PL II MUSIC** :PRO LOGIC IIサラウンドMUSICモード。
(**PRO LOGIC**表示が点灯)

③ **PRO LOGIC** :PRO LOGIC IIサラウンドPRO LOGICモード。
(**PRO LOGIC**表示が点灯)

④ **NEO:CINEMA** :NEO:6サラウンド。(**NEO:6**表示が点灯)
⑤ **NEO : MUSIC** :NEO:6サラウンド。(**NEO:6**表示が点灯)
⑥ **CS II CINEMA** :CS 6.1サラウンド。(**CS II**表示が点灯)
⑦ **CS II MUSIC** :CS 6.1サラウンド。(**CS II**表示が点灯)
⑧ **CS II MONO** :CS 6.1サラウンド。(**CS II**表示が点灯)
⑨ **STEREO** :通常のステレオ再生。(**STEREO**表示が点灯)

- ドルビーデジタル、DTSやAAC信号で、現在のスピーカー設定以上のチャンネル数が入力された場合は、自動的にダウンミキシング機能が働き、現在の設定に合わされます。

3 DSPモード(デジタルシグナルプロセッサー)。

DSPはオリジナルの音楽またはビデオの品質を劣化させることなく再生することができます。

❶ **DSPまたはDSP Modeキーを押すと現在のDSP MODEの設定が表示されます。**
❷ **キーを押すたびに以下のように切り換わります。**

① **ARENA** ：DSPサラウンド ARENAモード。
② **JAZZ CLUB** ：DSPサラウンド JAZZ CLUBモード。
③ **THEATER** ：DSPサラウンド THEATERモード。
④ **STADIUM** ：DSPサラウンド STADIUMモード。
⑤ **DISCO** ：DSPサラウンド DISCOモード。

- DSPモード選択は約3秒間表示されます。

4 THXモード。

THXモードでは、THX Surround EX技術によりサラウンドチャンネルの音場、臨場感を改善し家庭で映画館でのサウンドを再現します。

THXキーを押して以下の設定を選択する。

① **THX Sur EX ON** ：ドルビーデジタル5.1chフォーマットのサウンドトラックを検出するとTHXサラウンドEX機能が起動されます。
(**THX**表示が点灯)
② **THX Sur EX AUTO** ：Dolby Digital Surround EXのサウンドトラックを検出するとTHX Surround EX機能が起動されます。
(**THX**表示が点灯)
③ **THX ON** ：THXモードがONのとき。
(**THX**表示が点灯)
④ **THX OFF** ：THXモードがOFFのとき。
(**THX**表示が消灯)

- THX Surround EX機能が動作していることは**THX**表示がディスプレイ内で点灯することで確認できます。
- サラウンドバックスピーカーがOFFの場合はTHX Sur EX ONおよびTHX Sur EX AUTOメニューは使用できません。
- THX設定はインプットチャンネルごとに個別に設定できます。
- CS II、PL II MUSIC、NEO:MUSIC、AAC、ACTIVE EQまたはSPEAKER EQがオンの場合、THX機能は動作しません。

5 音量を調節する。

リッスンモードを一時的にSTEREOモードにするには

STEREOキーを押すと、現在選択されているリッスンモードをSTEREOモードに切り換えることができます。もう1回押すと、元のリッスンモードに戻ります。

- **STEREO**キーを使い、リッスンモードを切り換えると、DSPモードは自動的に解除されます。
- 電源を切り再び電源をオンにしたときも、元のリッスンモードに戻ります。

ご注意

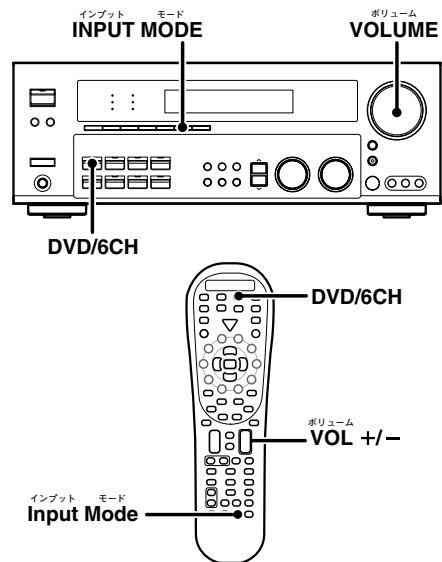
- 入力信号の種類や設定したスピーカーのタイプによって、選ぶことができないモードがあります。
- サラウンド効果がうまく得られない場合や、お好みのモードが選べない場合は、スピーカーの設定、インプットモードの設定をご確認ください。

- **Dialogue Normalization (Dial Norm)**はドルビーデジタルの特徴で、自動的にサラウンドサウンド全体のレベルを一定に保ちます。

DIALNORM OFFSET

Dolby Digitalのソースの中には再生中に"DIALNORM OFFSET xxdB"のメッセージが表示されるものがあります。これはサウンドトラックが通常のレベルより高く(低く)録音されていることを表し、xxがその程度を示します。
例として、"DIALNORM OFFSET +4dB"が表示された場合は、再生レベルが通常より4dB高いことを示します。再生レベルを通常のレベルにしたいときはボリュームレベルを4dB下げてください。

DVD 6チャンネル

6(5.1)チャンネル出力を持つDVDプレーヤーを使って、サラウンドサウンド再生を楽しむことができます。サラウンドソースを再生することができるDVDプレーヤーを接続することができます。

準備しましょう

- お手持ちのDVDプレーヤーを**DVD/6CH INPUT**端子に接続する。 →14
- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする。 →25

1 入力ソースとしてDVD/6CHキーを押す。

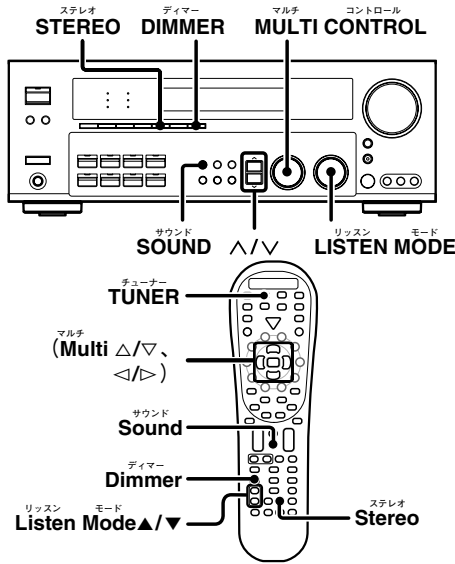
- "DVD/6CH"を選んだときにスピーカーBが選ばれているときは自動的にスピーカーBをオフにし、スピーカーAがオンになります。

2 INPUT MODEキーで"6CH INPUT"を選ぶ。

3 DVDプレーヤーを再生する。

4 音量を調節する。

- INPUT MODEが6CH INPUTモードになっていると、TONEや各スピーカーの音量レベルを調節することはできません(26ページで調節した各スピーカーの音量レベルは適応されません)。各スピーカーの音量はDVDプレーヤーで調節してください。パワードサブウーファーの音量はサブウーファーについている音量調節つまみで調節できます。

便利な機能

音を調整するには

再生中にお好みで音を調整することができます。

❶ **リモコンで操作するときは、リモコンのTUNERキーを3秒以上押して、リモコンをレシーバー操作モードにする。**

❷ **SOUNDキーを押し、要求項目が表示されるまで∧/∨キーまたは、Multi(◁/▷)キーを繰り返し押す。**

∧/∨キーまたは、Multi (◁/▷)キーを押すたびに次のように切り換わります。このとき、モードによっては表示されない項目があります。

① **CNTR**(センタースピーカーレベルの調整)*
② **SR**(サラウンド右スピーカーレベルの調整)*
③ **SBR**(サラウンドバック右スピーカーレベルの調整)*
④ **SBL**(サラウンドバック左スピーカーレベルの調整)*
⑤ **SL**(サラウンド左スピーカーレベルの調整)*
⑥ **SUBW**(サブウーファーレベルの調整)*
⑦ **AUDIO**(Stereo/主音声/副音声/主+副音声の選択)****
⑧ **INPUT**(インプットレベルの調整:アナログモードのみ) →28
⑨ **MIDNIGHT**(ミッドナイトモードのオン/オフ:ドルビーデジタルモードのみ)
⑩ **PANORAMA**(パノラマモードのオン/オフ)**
⑪ **DIMENSION**(ディメンション調節)** →41
⑫ **CENTER WIDTH**(センター幅調節)** →41
⑬ **CENTER FOCUS**(センターフォーカス調整)*** →41
⑭ **CSII DLY**(サラウンドスピーカー遅延調整)*** →41
⑮ **CSII GAIN**(入力利得調整)*** →41
⑯ **TruBass**(TruBass 調整)*** →41

* SOUND モードでの設定は一時的な設定です。電源のオン/オフや入力の切り換えで、最初の"スピーカーの設定をする"で設定した値に自動的に戻ります。
** PRO LOGIC II MUSIC モードのみ。
*** CS IIモードのみ。
**** AACモードのみ。

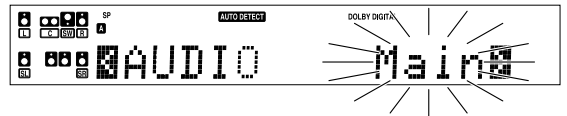
❸ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi(△/▽) キーを使ってレベルの調節や設定をする。**
- 調整項目は約8秒間表示されます。

主音声/副音声の切り換え(AAC信号のみ)

BSデジタル放送の2ヶ国語放送、音声多重放送の二重音声放送は、主音声/副音声を切り換えることができます。

❶ **SOUNDキーを押し、"AUDIO" が表示されるまで∧/∨キーまたは、Multi(◁/▷)キーを繰り返し押す。**
- CD/DVD、DVD/6CH, VIDEO 2またはVIDEO 3 の入力で、リッスンモードがAACのときのみ選べます。

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi(△/▽) キーを使って音声を選ぶ。**

① **AUDIO Stereo** :チューナー側で設定した音声形式
② **AUDIO Main** :主音声
③ **AUDIO Sub** :副音声
④ **AUDIO Main+Sub**:主音声+副音声

- モノラルではない二重音声放送は、音声の切り換えは本機ではできません。チューナー側で音声を切り換えてください。

ミッドナイトモード(ドルビーデジタルモードのみ)

夜中に映画を見るときなど、音量をあまり上げられないことがあります。このミッドナイトモードを選ぶと、ドルビーデジタルの映像ソフトであらかじめ指定されている部分(急に音量が大きくなるシーンなど)だけを、音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、指定されていない部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。お好みでお楽しみください。

❶ **SOUNDキーを押し、"MIDNIGHT" が表示されるまで∧/∨キーまたは、Multi(◁/▷)キーを繰り返し押す。**
- CD/DVD、DVD/6CH, VIDEO 2またはVIDEO 3 の入力で、リッスンモードがドルビーデジタルのときのみ選べます。

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi(△/▽) キーを使ってON/OFFを選ぶ。**

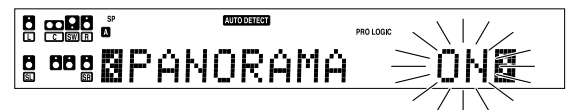
- 調整項目は約8秒間表示されます。
- ドルビーデジタルの映像ソフトには、ミッドナイトモードに対応していないものもあります。

PANORAMAモード(PRO LOGIC II MUSICモードのみ)

PANORAMA モードを使って、「音に包まれる」感覚を楽しめます。

❶ **SOUNDキーを押し、"PANORAMA" が表示されるまで∧/∨キーまたは、Multi(◁/▷)キーを繰り返し押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi(△/▽) キーを使ってPANORAMA ONまたはOFFを選ぶ。**

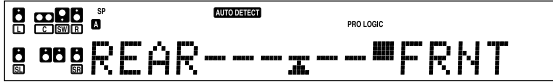
① **PANORAMA ON** :パノラマモードがONになる。
② **PANORAMA OFF** :パノラマモードがOFFになる。

DIMENSIONモード（PRO LOGIC II MUSICモードのみ）

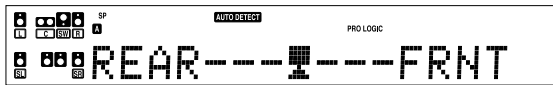
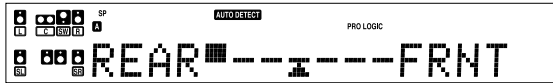
DIMENSION モードの調節で、全スピーカーのバランスを好みに合わせてかえることができます。

❶ **SOUNDキーを押し、"DIMENSION"が表示されるまで∧/∨キーまたは、Multi（△/▽）キーを繰り返し押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使って音場を前後に調節する。**

音場が前寄りになる

↓

音場がニュートラルになる

↓

音場が後ろ寄りになる

CENTER WIDTHモード（PRO LOGIC II MUSICモードのみ）

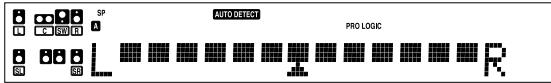
PLII MUSICリッスンモードではCENTER WIDTH設定モードを使ってセンターチャンネルの出力信号を左右のフロントスピーカーに振り分けることができ、広がりのある音を楽しむことができます。

❶ **SOUNDキーを押し、"CENTER WIDTH"が表示されるまで∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを繰り返し押す。**

- CENTER WIDTH表示が表示窓に流れます。
- センタースピーカーがオフのとき、この機能は働きません。

❷ **MULTI CONTROLまたは、Multi（△/▽）キーを使って左右およびセンタースピーカーの出力を調節する。**

センター成分がセンタースピーカーからのみ聞こえる

センター成分が左右スピーカーからのみ聞こえる

- センター成分の再生方法を、センタースピーカーのみの再生からフロントスピーカーのみの再生の間で調節できます。

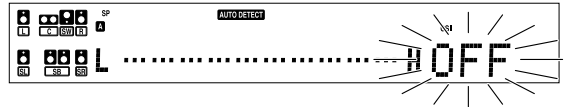
Circle Surround II（CS II）モード

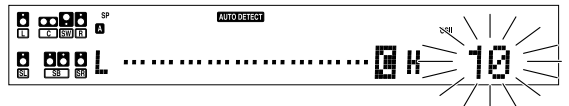
Circle Surround IIモードを選択するとステレオソースからのマルチサラウンド音を楽しむことができます。

LISTEN MODEつまみ、またはListen Mode ▲/▼キーを使ってCS IIを選択する。

CENTER FOCUSモード（CS IIモードのみ）

センターフォーカス高さ調整は、CS II CINEMA/MUSIC/MONOを選択した場合、この機能により聴取者はセンターからの音が自然な高さから聞こえてくるように調整できます。

❶ **SOUNDキーを押し、"CENTER FOCUS"が表示されるまで∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを繰り返し押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってセンターの高さを設定する。**

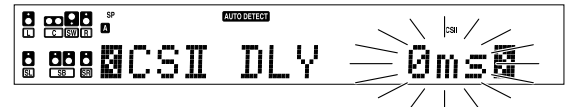
- 設定できる範囲は0～10です。

- センタースピーカーがオフの場合はCENTER FOCUS機能は使えません。

CS II DELAY調整モード（CS IIモードのみ）

CS II サラウンドスピーカー遅延調整によりサラウンドスピーカーからより良いサラウンド効果が得られます。

❶ **SOUNDキーを押し、"CSII DLY"が表示されるまで∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを繰り返し押す。**

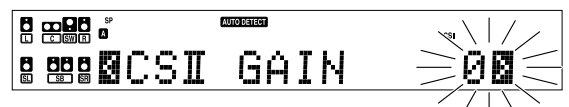
❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを後方スピーカー遅延レベルを設定する。**

- 設定できる範囲は0～25msまでです。

CS II GAIN調整モード(CS IIモードのみ)

CS II GAINはCircle Surround II処理のためのインプットゲインの調整を可能にします。

❶ **SOUNDキーを押し、"CSII GAIN"がディスプレイに表示されるまで∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを繰り返し押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってインプットゲインを設定する。**

- 設定できる範囲は0～－18までです。

TruBass調整モード（CS II モードのみ）

TruBass調整モードにより多彩なスピーカーを使用して深く、重厚な音を出すことができます。

❶ **SOUNDキーを押し、"TruBass"が表示されるまで∧/∨キーまたは、Multi（◁/▷）キーを繰り返し押す。**

❷ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使って以下を選択する。**
① TruBass OFF
② TruBass SW
③ TruBass LR
④ TruBass SW + LR

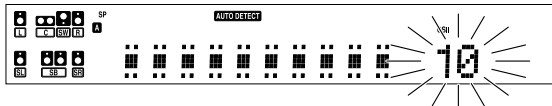
- ②、③または④が選択されると、TruBassスピーカーサイズとレベルが選択可能になります。
- ACTIVE EQ機能（➡31）を使用しているときは、TruBassをOFFにはできません。

❸ **∧キーまたは、Multi（▷）キーを押す。**

❹ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使って以下のTruBassスピーカーサイズを選択する。**
① TruBass LARGE
② TruBass MID
③ TruBass SMALL

❺ **∧キーまたは、Multi（▷）キーを押す。**

❻ **MULTI CONTROLつまみまたは、Multi（△/▽）キーを使ってTruBassレベルを調整する。**

- 調整できる範囲は0（TruBass OFF）～10までです。

ディスプレイの明るさを調節する

本機のディスプレイの明るさを選べます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

DIMMERキーを押すたびに3段階で切り換わります。お好みの明るさにしてください。
① 明るい
② 普通
③ 暗い

96kHz リニアPCMの再生

96kHz リニアPCMに対応しています。96kHz DVDをお聞きになる場合はリッスンモードを"STEREO"にしてください。

- **FULL AUTO**（フルオート）入力モードでは、リッスンモードは自動的にSTEREOに切り換わります。
- **DIGITAL MANUAL**（デジタルマニュアル）入力（STEREO以外のモードが選ばれているとき）では、"FS 96kHz"が表示され、スピーカーからは音が聞こえません。
  LISTEN MODEまたは**STEREO**キーを押すとSTEREOモードに切り換わり、スピーカーから音が聞こえます。

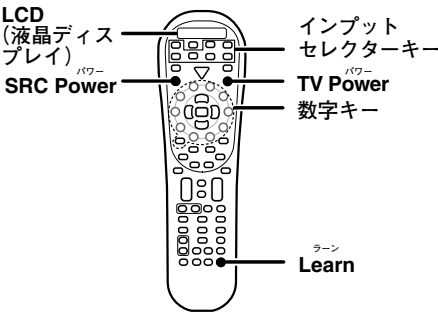
他の機器をリモコンで操作する

リモコンにセットアップコードを登録すれば本機付属のリモコンでも他社製機器の操作が可能になります。

電池が消耗したときのご注意
操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り替えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。

お手持ちの機器のセットアップコードを登録する

リモコンのインプットセレクターキーに、お手持ちの機器のリモコンに対応するセットアップコードを登録します。お手持ちの機器を登録すると、リモコンのインプットセレクターキーで入力ソースを切り換えると本機リモコンで登録した機器を操作できるようになります。

- テープデッキ、MDへ録音するときなど、入力ソースは切り換えずに、リモコンのみ登録した機器を操作できるように切り換えることもできます。

1 登録する機器のセットアップコードを探す。

登録する機器のセットアップコードは、セットアップコード表の中から探してください。 →46

例：ケンウッド製のDVDを登録する場合、"0490"、"0534"または"0682"がセットアップコードとなります。

2 機器を登録するインプットセレクターキー（DVD/6CH、CD/DVD、MD/TAPE、VID1、VID2、VID3、AV AUX、TV）を押す。

各インプットセレクターキーに、登録できる機器は次の機器です。

インプットセレクターキー	登録できる機器	機器を接続する入力端子
DVD/6CH	DVD	DVD/6CH(DVD)
CD/DVD	CD または MD（ケンウッド）	CD/DVD(DVD)
MD/TAPE	カセットデッキ（ケンウッド）	MD/TAPE
VID1	ビデオデッキ	VIDEO1
VID2	登録するには、はじめにインプットセレクターキーの登録機器の割り当てをかえる必要があります。	VIDEO2
VID3		VIDEO3
AV AUX	ビデオデッキ	AV AUX
TV	テレビ(含むビデオ内蔵型テレビ)	–

- 登録する機器に応じた機器が、本機の入力端子に接続されているか確認してください。
- インプットセレクターキー"VID2"、"VID3"は、登録できる機器の割り当てをかえれば、2台目のDVD、CD、ビデオデッキなどを登録することができます。44ページ「インプットセレクターキーに登録できる機器の割り当をかえる」をご覧ください。

3 リモコンのLCDに📶が2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。

- 📶が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

4 数字キーを使って機器に登録されている4桁のセットアップコードを入力する。

- 登録がおこなわれたときは📶が2回点滅します。

5 登録した機器が動作するか確認する。

正しく登録が行われたかを確認するには、次の操作をし機器が動作するかを確認します。

登録された機器にリモコンを向け、**SRC Power**キー（テレビの場合は**TV Power**キー）を1回押します。正しく登録されていれば、機器の電源がオンまたはオフになります。

カセットデッキの場合は、カセットデッキの電源を入れ、カセットテープを入れて再生等の操作をします。正しく登録されていれば、操作に応じて機器が動作します。

機器が動作しないときは

機器に対応したセットアップコードが複数ある場合は、他のセットアップコードで、手順 3 〜5の登録操作をします。

- 他の機器を登録するときは、手順 1 〜 5 を繰り返します。
- 登録したセットアップコードを変更するときは、あらためて手順 1 〜 5の操作をし、セットアップコードを登録し直してください。
- 機器に対応した全てのセットアップコードを登録しても操作できないときは、本機リモコンの学習機能を使用して、機器のリモコンコードを直接リモコンに記録させることができます。 →45

お知らせ

各セットアップコードは多数の機器で動作するように設計されていますが、機器によっては動作しないものもあります。（また、セットアップコードによっては、利用できる機能のうち、いくつかしか操作できないものもあります。）

お手持ちの機器のセットアップコードを探し登録する

お手持ちの機器のメーカー名を特定できないときやセットアップコード表から見つけ出すことができないとき、次の方法でセットアップコードを探し、登録するすことができます。

例：テレビのセットアップコードを探すとき

1 TVキー1回押す。

テレビ以外のセットアップコードを探すときは

TVキーのかわりに登録するインプットセレクターキーを押します。

2 リモコンのLCDに📶が2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。

- 📶が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

3 数字キーで"991"を入力する。

- 📶が2回点滅します。

4 登録したいTVに向けリモコンの、TV PowerキーとTVキーを交互にゆっくりと押し、テレビの電源がオンかオフになったら操作をやめる。

- これらの操作では、リモコンからテレビの電源オン/オフの信号を送信し、コードが合えばテレビの電源はオンまたはオフになります。リモコンに登録されているコードを、一般的な製造メーカーのコードから順次送信します。

テレビ以外のセットアップコードを探すときは

DVD、CD、MD、ビデオデッキのセットアップコードを探すときは、手順1で押したインプットセレクターキーと**SRC Power**キーを交互に押し、登録する機器の電源がオンまたはオフになるかを確認します。

カセットデッキのセットアップコードを探すときは、機器の電源を入れ、テープを入れた状態で、手順1で押したインプットセレクターキー（MD/TAPE）と再生キーなどを交互に押し、登録する機器が動作するか確認します。

5 Learnキーを1回押すと、コードが確定されインプットセレクターキーに登録されます。

セットアップコードの確認

インプットセレクターキーに登録した4桁のセットアップコードを確認することができます。

1 機器を登録したインプットセレクターキーを押す。

2 リモコンのLCDにᯤが2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。

- ᯤが2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

3 数字キーで "9 9 0" を入力する。

- ᯤが2回点滅します。

4 数字キー"1"を押します。

4桁のコードの最初の桁の数字と同じ回数だけᯤが点滅します。登録されているセットアップコードが"1338"の場合、ここでは1回ᯤが点滅します。コードの数字が "0"のときは、ᯤは点滅しません。

5 手順 4 と同様に数字キー"2"、"3"、"4"と順番に押し、それぞれの点滅回数を読み取りセットアップコードの各桁の数字を確認します。

インプットセレクターキーに登録できる機器の割り当てをかえる

各インプットセレクターキーには、セットアップコードを入力して登録可能な機器があらかじめ割り当てられていますが、割り当てを変更することができます。

例えば、初期状態ではインプットセレクター**MD/TAPE**キーはケンウッド製カセットデッキが登録できますが、**MD/TAPE**キーに**CD/DVD**キーと同様にMDレコーダーを登録するには次のようにキーの置き換え操作(インプットセレクターキーに登録可能な機器の変更)をします。

1 リモコンのLCDにᯤが2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。

- ᯤが2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

2 数字キーで "9 9 2" を入力する。

- ᯤが 2 回点滅します。

3 CD/DVDキーを 1 回押し、MD/TAPEキーを 1 回押します。

ᯤが2回点滅し、**CD/DVD**キー とともに**MD/TAPE**キーにもMDレコーダー、CDプレーヤーを登録することができるようになります。使用する機器に応じたセットアップコードを登録してください。

手順 3 で押すキーを置き換えることにより、インプットセレクターキーに登録できる機器をいろいろな組み合わせでかえることができます。例えば、インプットセレクター "A" キーに "B" キーと同じ機器を登録できるようにキーの置き換えをするときは、数字キー "9 9 2" の次に "B" キー、"A" キーの順にキーを押します。

- インプットセレクターキーとお手持ちの機器の関連づけの組み合わせについては、前ページの表を参照してください。
- キーの割り当てを元にもどすには、"9 9 2"の次にもどすインプットセレクターキーを2回押します。
- **TUNER**キーは、登録できません。

キーの置き換えとキーを押す順番の例

VID2キーにビデオデッキを登録する

VID2をVID1キーにする "9 9 2" ➡ "VID1" ➡ "VID2"

元にもどす

VID2をVID2キーにもどす "9 9 2" ➡ "VID2" ➡ "VID2"

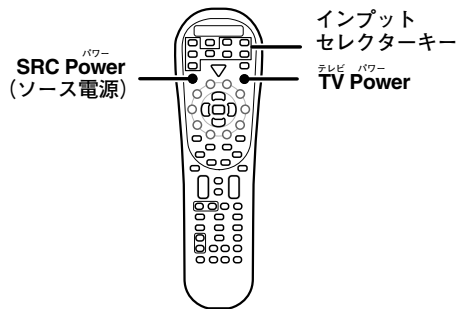
VID3キーにDVDプレーヤーを登録する

VID3をDVD/6CHキーにする "9 9 2" ➡ "DVD/6CH" ➡ "VID3"

元にもどす

VID3をVID3キーにもどす "9 9 2" ➡ "VID3" ➡ "VID3"

他の機器を操作する

リモコンのインプットセレクターキーに登録した機器は、本機のリモコンで操作することができます。

1 インプットセレクターキーを押して操作したい機器を選ぶ。

キーを押すと本機リモコンで登録した機器の操作ができるようになります。本機の入力も切り換わります。

本機の入力は切り換えず、リモコンのみ登録した機器を操作できるようにするには、インプットセレクターキーを3秒以上押し続けます。

- リモコンを本機の操作に戻すには、**TUNER** キーを3秒以上押し続けます。

2 機器の電源をオンにする。

- リモコンに登録したDVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、ビデオデッキは、本機リモコンの**SRC Power**キーを押すと電源をオンにできます。
- リモコンに登録したテレビは、本機リモコンの**TV Power**キーを押すと電源をオンにできます。

3 操作するキーを押す。

- 各機器で使用できるキーは、50〜52ページをご覧ください。

ご注意

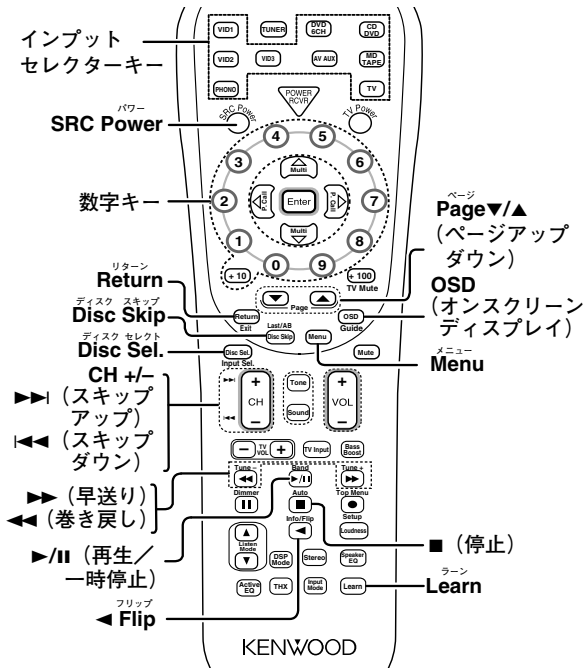
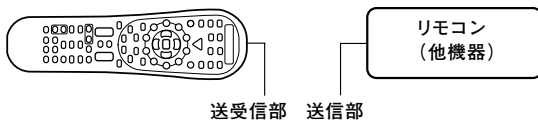
システムコントロールコードで接続したケンウッド製のオーディオ機器を操作するときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。システムコントロールコードで接続していないときは、リモコンを操作したい機器に向けてください。

他の機器のリモコンコードを記憶させる

他の機器のリモコンコードを本機リモコンに直接記憶させることにより、セットアップコード表にない機器を操作したり、キー機能を追加記憶させて操作することができます。

お知らせ
　機器によっては、記憶できない場合もあります。

キーに登録する

下図のキーにリモコンコードを記憶させることができます。

1 ***記憶させたい機器のリモコンの赤外線送信部を、本機リモコンの赤外線送受信部に向ける。***

2 ***リモコンのLCDにが2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。***

- が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

3 ***数字キーで"9 7 5"を入力する。***

4 ***本機リモコンの登録したい機器に対応するインプットセレクターキー(DVD/6CH、CD/DVD、MD/TAPE、VID1、VID2、VID3、AV AUX、TV)のいずれかを選択する。***

- TUNERキーは、登録できません。

5 ***本機リモコンの記憶させたいキーを押す。***

- リモコンのLCD(液晶ディスプレイ)に"LEARN"が表示されます。

6 ***本機リモコンに記憶させたい他の機器のリモコンのキーを押す。***

リモコンコードが本機のリモコンに送信されます。リモコンコードの記憶が終了すると"OK"が表示されます。

- リモコンコードが記憶できない状態が何回か続くと"ERROR"が表示されます。この場合は手順**2**～**6**の操作をやり直してください。

7 ***同じリモコンの他のキーを記憶させるときは、手順5～6を繰り返す。***
別のリモコンのキーを記憶させるときは、手順4～6を繰り返す。

8 ***が2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなし、LEARNモードを終了する。***

記憶させた機能を消去するときは

学習機能で本機リモコンに記憶させたリモコンコードを、キーごとに消去することができます。

❶ リモコンのLCDにが2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。
- が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

❷ 数字キーで"9 7 6"を入力する。

❸ 消去したい機器に対応するインプットセレクターキーを押します。

❹ 消去したいキーを2回押します。
- が2回点滅し、手順❹で押したキーのリモコンコードが消去されます。
- 他のキーのリモコンコードを消去するには、手順❶～❹を繰り返します。

リモコンに登録、記録した内容を全て消去するには

セットアップコードによる機器の登録、学習機能により記憶させた内容全て消去して、リモコンをお買い上げいただいたときの初期状態に戻すことができます。

1 ***リモコンのLCDにが2回点滅するまでLearnキーを押し続け、Learnキーをはなす。***

- が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

2 ***数字キーで"9 8 1"を入力する。***

- が4回点滅し、リモコンに登録、記録した内容が全て消去されます。

セットアップコード表

カセットデッキセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Kenwood	0071, 0070, 0092, 0183, 0205, 0233, 0234, 0251, 0386

CDプレーヤー、MDレコーダーセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Kenwood	0028, 0190, 0338, 0339, 0826, 0037, 0340, 0523, 0626, 0677, 0858, 0859, 0681, 1490

ケンウッドのシステムコントロール付きの機器のセットアップコード

機器	セットアップコード
CD	1338
MD	1339
Cassette Deck	1340

システムコントロール接続したMDを本機リモコンで操作するには、以下の接続、リモコンコードの登録が必要です。

❶ MDをMD/TAPE端子に接続する

❷ MD/TAPE端子接続した機器に合わせて、本体のディスプレイに表示される機器の入力名称をMDにする

本体の電源を入れて、本体の**MD/TAPE**キーを2秒以上押して、入力表示を"MD"にする。

詳しい操作方法については、29ページ「MD/TAPEの選択」をご覧ください。

❸ リモコンのインプットセレクターMD/TAPEキーにMDを登録できるようにする

（1）リモコンのLCDにが2回点滅するまで**Learn**キーを押し続け、**Learn**キーをはなす。
- が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

（2）数字キーで"９９２"を入力する。
- が2回点滅します。

（3）**CD/DVD**キーを１回押し、**MD/TAPE**キーを１回押します。
- が2回点滅し、**MD/TAPE**キーにMDを登録することができるようになります。
- リモコンのLCDにはCD2と表示されます。

詳しい操作方法については、44ページ「インプットセレクターキーに登録できる機器の割り当てをかえる」をご覧ください。

❹ システムコントロール接続したMDのセットアップコードを入力する

（1）リモコンのインプットセレクター**MD/TAPE**キーを押す。

（2）リモコンのLCDにが2回点滅するまで**Learn**キーを押し続け、**Learn**キーをはなす。
- が2回点滅後10秒以内に次の操作をしてください。

（3）数字キーで"１３３９"を入力する。
- 登録がおこなわれたときはが2回点滅します。

正しく登録されていれば、本機リモコンでMDの操作を行うことができます。本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
詳しい操作方法については、43ページ「お手持ちの機器のセットアップコードを登録する」をご覧ください。

テレビセットアップコード

メーカー	セットアップコード
AOC	0019,0030
Abex	0032
Admiral	0093,0463
Advent	0761
Adventura	0800
Aiko	0092, 0805
Aiwa	0701, 0800, 0802
Akai	0030
Alaron	0179, 0216
America Action	0180, 0805
Ampro	0751
Anam	0180
Apex Digital	0765, 0748, 0767
Asha	0804
Audiovox	0180, 0092, 0451, 0623, 0805, 0802
Baysonic	0180
Belcor	0019
Bell & Howell	0016, 0154
Beaumark	0804
Bradford	0180
Brockwood	0019
Broksonic	0236, 0463, 0801, 0817, 0901
CCE	0803, 0805
CXC	0180
Calix	0802
Candle	0816, 0030, 0056
Carnivale	0030
Carver	0054
Celebrity	0000
Changhong	0765
Cineral	0451, 0092, 0805
Citizen	0186, 0056, 0030, 0060, 0092, 0802, 0805, 0816
Colt	0803
Concerto	0056
Contec	0180
Craig	0180, 0802, 0803, 0804
Crosley	0054
Crown	0180
Curtis Mathes	0060, 0030, 0016, 0047, 0054, 0056, 0093, 0145, 0154, 0166, 0451, 0466, 0702, 0747, 1147, 1347, 0809
Cybernex	0804
Daewoo	0092, 0623, 0019, 0451, 0816, 0805
Daytron	0019
Denon	0145
Dumont	0017, 0019
Dwin	0720, 0774
Dynatech	0800
Electroband	0000
Electrohome	0802
Electrophonic	0802
Emerson	0236, 0180, 0178, 0179, 0463, 0623, 0019, 0154, 0801, 0805, 0816, 0800, 0802, 0817
Envision	0030
Fisher	0154

セットアップコード表

テレビセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Fujitsu	0179, 0683
Funai	0180, 0171, 0179, 0800
Futuretech	0180
GE	0021, 0047, 1347, 0051, 0178, 0251, 0451, 1147, 0747, 0804, 0807, 0809, 0811
Garrard	0800
Gibralter	0017, 0019, 0030
GoldStar	0178, 0019, 0030, 0032, 0802, 0814
Gradiente	0056, 0053, 0800
Grunpy	0179, 0180
Haier	0768
Hallmark	0178
Harley Davidson	0179, 0800
Harman/Kardon	0054
Harvard	0180
Harwood	0803
Havermy	0093
Hitachi	0145, 0056, 0016, 0032, 0800
Infinity	0054
Inteq	0017
JBL	0054
JCB	0000
JVC	0053
KEC	0180, 0802, 0805
KLH	0803
KTV	0180, 0030
Kamp	0216
Kawasho	0216
Kenwood	0030, 0019
Kodak	0802
Konka	0707, 0632, 0628, 0638, 0703, 0902
LG	0056
LXI	0154, 0047, 0054, 0156, 0178, 0747, 0802
Logik	0016, 0803
Llyod's	0800
Luxman	0056
MGA	0150, 0019, 0030, 0178, 0804
MGN Technology	0804
MTC	0060, 0030, 0019, 0056, 0216, 0800, 0804
Magnasonic	0816
Magnavox	0054, 0030, 0179, 0186, 1254, 1454, 0800, 0818
Magnin	0804
Majestic	0016
Marantz	0054, 0030, 0444
Marta	0802
Matsushita	0250, 0806
Megatron	0145, 0178
Memorex	0179, 0463, 0178, 0016, 0150, 0154, 0250, 0800, 0802, 0804, 0810, 0806, 0812, 0814, 0815
Midland	0017, 0032, 0047, 0051, 0747
Minutz	0021
Mitsubishi	0150, 0178, 0019, 0093, 0807
Motorola	0093
Multitech	0180, 0800, 0803

テレビセットアップコード

メーカー	セットアップコード
NAD	0156, 0166, 0178
NEC	0030, 0019, 0056, 0434, 0497
NTC	0092
Nikko	0178, 0030, 0092, 0802
Noblex	0804
Onwa	0180
Optimus	0250, 0166, 0154, 0806, 0812, 0815, 0802
Optonica	0093
Orion	0463, 0179, 0236, 0801, 0817
Panasonic	0051, 0250, 0806, 0812, 0815, 0809, 0907
Penney	0047, 1347, 0060, 0030, 0021, 0178, 0051, 0019, 0032, 0156, 0747, 0804, 0802, 0809, 0814
Philco	0145, 0019, 0030, 0054, 0463
Philips	0054, 1454, 0904
Pilot	0019, 0030, 0802
Pioneer	0166, 0679
Portland	0019, 0092
Princeton	0717
Prism	0051
Profitronic	0804
Proscan	0047, 0747, 0811
Proton	0466, 0178
Protec	0803
Pulsar	0017, 0019
Quasar	0051, 0250, 0812, 0806, 0809
RCA	0047, 1347, 1147, 0679, 1247, 0019, 0090, 0747, 1047, 1547, 0811, 0804, 0807, 0809, 0905
RadioShack	0180, 0030, 0178, 0154, 0019, 0032, 0047, 0056, 0747, 0800, 0810
Radix	0802
Randex	0802
Realistic	0180, 0154, 0030, 0178, 0019, 0032, 0056, 0800, 0802
Rhapsody	0216
Runco	0251, 0603, 0017, 0497, 0030
SSS	0019, 0180
Sampo	0030, 0032
Samsung	0060, 0019, 0178, 0766, 0030, 0032, 0056, 0427, 0702, 0804
Sansei	0451
Sansui	0463, 0800, 0817, 0901
Sanyo	0154, 0804
Scimitsu	0019
Scotch	0178
Scott	0236, 0019, 0178, 0179, 0180
Sears	0154, 0156, 0047, 0054, 0056, 0171, 0178, 0179, 0747, 0800, 0802, 0814
Semivox	0180
Semp	0156
Singer	0803
Sharp	0093, 0688, 0689, 0807, 0900
Shogun	0019, 0804
Shintom	0803
Signature	0016
Simpson	0186
Sony	0000, 1100, 0800, 0813

セットアップコード表

テレビセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Soundesign	0178, 0179, 0180, 0186
Squareview	0171
Starlite	0180
Supreme	0000
Sylvania	0054, 0171, 0030, 0800, 0818, 0903
Symphonic	0171, 0180, 0800
TMK	0056, 0178, 0804
TNCi	0017
Tandy	0093
Tatung	0396
Teac	0800
Technics	0051, 0250
Technol Ace	0179
Techwood	0051, 0056
Teknika	0186, 0016, 0054, 0179, 0180, 0019, 0092, 0056, 0060, 0150, 0800, 0802
Telefunken	0056, 0702
Thomas	0800
Toshiba	0156, 0060, 0154,1256, 0808, 0906, 0901
Totevision	0802, 0804
Unitech	0804
Vector Research	0030
Victor	0053
Videomagic	0802, 0804
Vidikron	0242, 0054
Vidtech	0019, 0178
Villain	0800
Wards	0054, 0178, 0016, 0019, 0021, 0030, 0056, 0179, 0800, 0804, 0803
Waycon	0156
White Westinghouse	0623, 0463, 0803, 0816
XR-1000	0803, 0800
Yamaha	0019, 0030, 0769
Zenith	0017, 0016, 0092, 0463, 0800, 0817

ビデオセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Admiral	0048, 0209
American High	0035
Bell & Howell	0104
Broksonic	0121, 0184, 0209, 1479
Canon	0035
Carver	0081
Craig	0047
Curtis Mathes	0035, 0060, 0162, 0760
Daewoo	0045
Denon	0042
Emerex	0032
Emerson	0184, 0209, 0121, 0479, 0043
Fisher	0047, 0104
Fuji	0033, 0035
GE	0035, 0060, 0760
Go video	0432
GoldStar	0038
HI-Q	0047
Harman/Kardon	0038, 0081
Hitachi	0042
Hughes Network Systems	0042
JVC	0067
Kenwood	0067, 0038
Kodak	0035
MEI	0035
MGA	0043
Magnavox	0035, 0081, 0563, 0039, 0149
Marantz	0081, 0035
Matsushita	0035, 0162
Memorex	0104, 0047, 0479, 0048, 0035, 0039, 0162, 0209
Minolta	0042
Mitsubishi	0043, 0067
Motorola	0035, 0048
NEC	0038, 0067, 0104
Olympus	0035
Optimus	0162, 0048, 1062, 1048, 0104, 0432
Orion	0479, 0184, 0209
Panasonic	0035, 0162, 1062, 0225, 0616
Penney	0035, 0042, 0038
Pentax	0042
Philco	0035, 0209, 0479
Philips	0081, 0035, 0618, 1081, 1181
Pioneer	0067
Polk Audio	0081
Proscan	0060, 0760
Pulsar	0039
Quasar	0035, 0162
RCA	0060, 0042, 0149, 0760
Realistic	0104, 0047, 0048, 0035
ReplayTV	0614, 0616
Runco	0039
STS	0042
Samsung	0045
Sanky	0039, 0048
Sansui	0479, 0067, 0209
Sanyo	0047,0104

セットアップコード表

ビデオセットアップコード

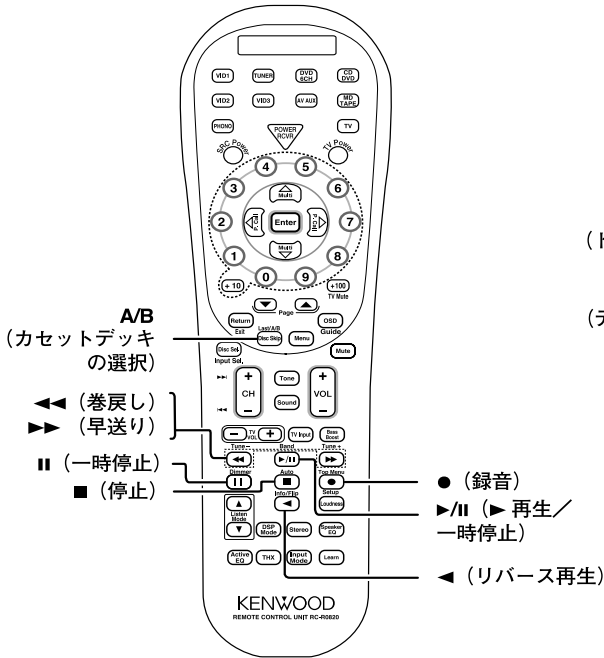
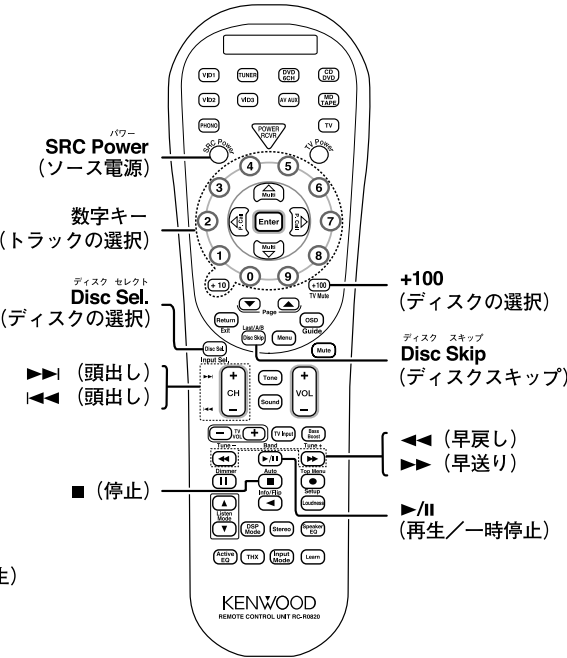
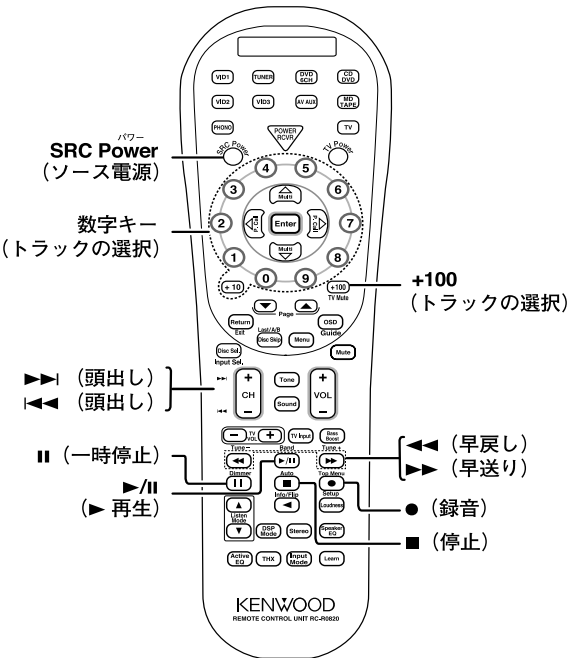
メーカー	セットアップコード
Scott	0184, 0121, 0043, 0045
Sears	0042, 0035, 0047, 0104
Semp	0045
Sharp	0048, 0848
Sonic Blue	0614, 0616
Sony	0033, 0032, 0636, 0035, 1032
Sylvania	0035, 0081, 0043
Technics	0035, 0162
Teknika	0035
Tivo	0618, 0636
Toshiba	0045, 0043
Vector	0045
Vector Research	0038
Video Concepts	0045
Victor	0067
Wards	0035, 0060, 0047, 0042, 0048, 0081, 0149, 0760
White Westinghouse	0209
XR-1000	0035
Yamaha	0038
Zenith	0039, 0479, 0033, 0209

DVDプレーヤーセットアップコード

メーカー	セットアップコード
Aiwa	0641
Apex Digital	0755, 0796, 0672, 0717, 0794, 0795, 0797, 0830
Audiologic	0736
B&K	0655
Blue Parade	0571
DVD2000	0521
Daewoo	0784
Denon	0634, 0490
Emerson	0591
Enterprise	0591
Fisher	0670
GE	0717, 0522, 0815
GPX	0769, 0699
Go Video	0715, 0783
Gradiente	0651
Greenhill	0717
Harman/Kardon	0582, 0702
Hitachi	0573, 0664
Hiteker	0672
JBL	0702
JVC	0623, 0558, 0867
KLH	0717
Kenwood	0534, 0490, 0682
Konka	0711
Koss	0651
Lasonic	0798
Magnavox	0503, 0675
Malata	0782
Marantz	0539
Microsoft	0522
Mintek	0717
Mitsubishi	0521
Nesa	0717
Onkyo	0627, 0503
Oritron	0651
Panasonic	0490, 1490, 0632
Philips	0539, 0646, 0503
Pioneer	0571, 0525, 0632
Polk Audio	0539
Princeton	0674
Proscan	0522
RCA	0522, 0571, 0822, 0717
Rowa	0823
Sampo	0698
Samsung	0573, 0820
Sanyo	0670
Sherwood	0633
Shinsonic	0533
Sony	0533
Sylvania	0675
Technics	0490
Techwood	0692
Theta Digital	0571
Toshiba	0503
Tredex	0800, 0799, 0803, 0804
Urban Concepts	0503
Victor	0623, 0558, 0867
Yamaha	0545, 0490, 0817, 0539
Zenith	0591, 0503

カセットデッキ、CDプレーヤー、MDレコーダー操作

ケンウッドのシステムコントロール付きのカセットデッキ、CDプレーヤー、MDレコーダーに接続しているとき、下記のキーで基本操作ができます。 →24

カセットデッキ操作キー

CDプレーヤー操作キー

MDプレーヤー操作キー

テレビ、ビデオデッキ操作

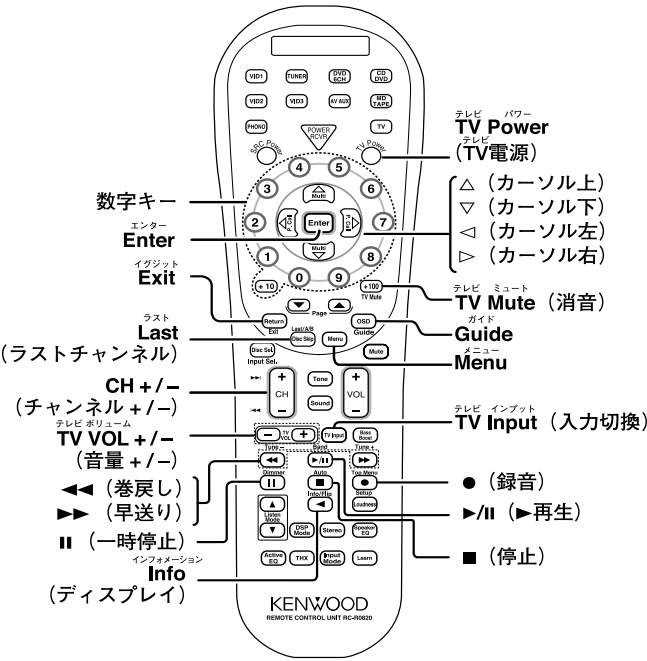
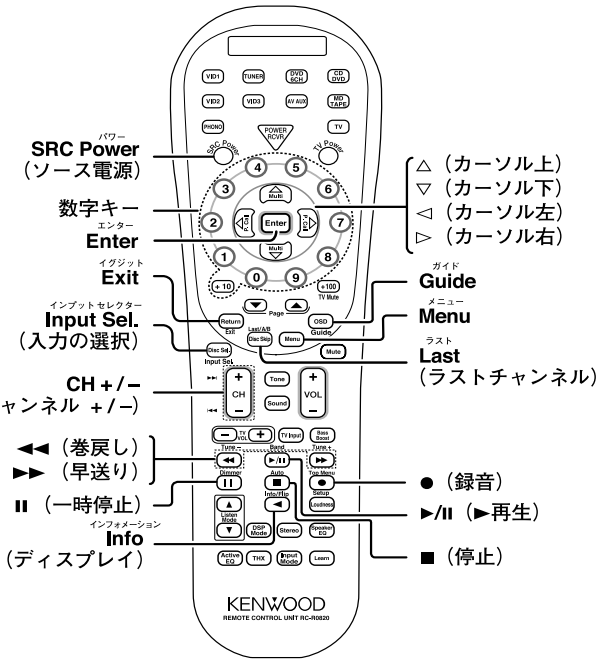
各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

❶ 入力するソースを選ぶ。
❷ 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたキーを押す。
以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

- 続けて複数のキーを操作するときは、1つのキーをしっかり押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。

本キーによりケンウッド製および設定コードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 →46

テレビ操作キー

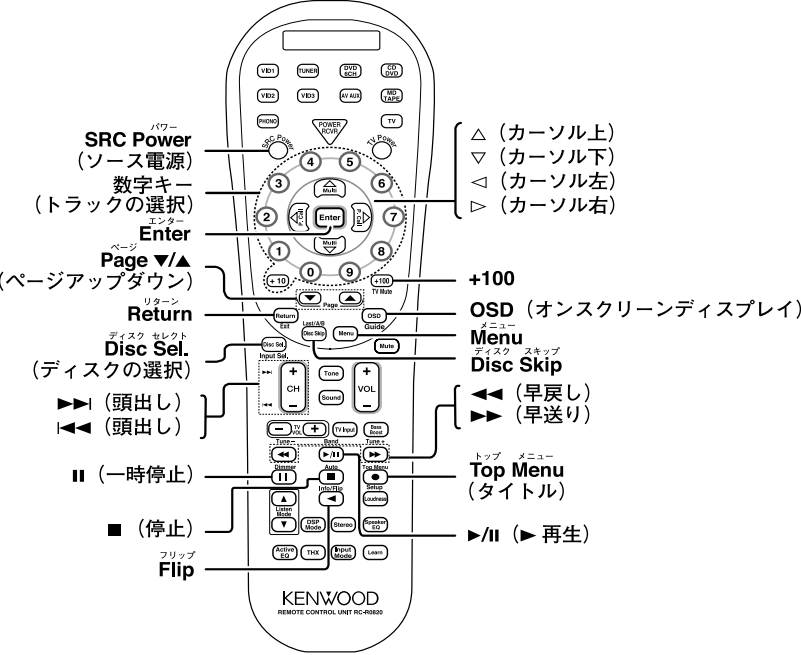
（含むビデオ内蔵型テレビ）

ビデオ操作キー

DVDプレーヤー操作

各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

❶ 入力するソースを選ぶ。
❷ 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたキーを押す。
以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

- 続けて複数のキーを操作するときは、1つのキーをしっかり押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。

本キーによりケンウッド製および設定コードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 →46

DVDプレーヤー操作キー

故障かな?と思ったら

マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

電源プラグをコンセントに差し込んだままで、POWER ON/OFFキーをオフにして、ON/STANDBY⏻キーを押しながら、POWER ON/OFFキーをオンにする。

●リセットにより、各種の記憶内容は消去され、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ部

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●MUTEがオンになっている。 ●スピーカースイッチがオフになっている。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。→ 19 ●適当な音量にする。 ●MUTEを解除にする。→ 30 ●スピーカースイッチをオンにする。→ 29
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	●スピーカーコードがショートしている。	●主電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度電源を入れる。
スピーカーの片側から音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。→ 19
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない、または音が小さい。	●サラウンドスピーカー、センタースピーカーが接続されていない。 ●サラウンドモードになっていない。 ●サラウンドレベルおよびセンターレベルが最小になっている。	●「スピーカーの接続」を見て正しく接続し直す。→ 19 ●サラウンドモードにする。 ●テストトーンを使って、スピーカーのレベルを調節する。→ 26
入力切換キーをPHONOにするとブーンという音が出る。	●オーディオコードがプレーヤーの**PHONO**端子にしっかりと差し込まれていない。 ●プレーヤーの信号用アース線が接続されていない。	●オーディオコードを**PHONO**端子にしっかりと差し込む。 ●信号用アース線を背面の⏚マークの端子に接続する。
DVDプレーヤーでドルビーデジタルのソースの再生を始めると最初の音が切れる。	●DVDプレーヤーの種類によって、いろいろな原因があります。	●インプットモードをデジタルマニュアルにしてからドルビーデジタルのソースを再生する。→ 13
DVDを再生しても、音が出ない。	●インプットモードがデジタルマニュアルに設定されている。	●**INPUT MODE**キーを押して、デジタルオートを選ぶ。→ 13
ビデオ入力からの録画ができない。	●コピープロテクトがかかっている。	●コピープロテクトがかかっているソースは録画できません。
BSデジタル放送のAACマルチチャンネル音声放送がマルチチャンネル音声で再生できない。	●AAC信号が入力されていない。	●BSデジタルチューナーのデジタル出力の設定をAAC出力にする。
BSデジタル放送の音声切り換えができない。	●放送によっては音声は本機では切り換えることができません。	●BSデジタルチューナー側で音声を切り換える。

チューナー部

症　状	原　因	処　置
放送局が受信できない。	●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。	●アンテナを接続する。→ 23 ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。→ 33
雑音が入る。	●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	●プリセットした放送局が、受信できない周波数である。 ●長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。	●受信できる周波数の放送局をプリセットする。 ●もう一度プリセットする。

リモコン操作

症　状	原　因	処　置
リモコンを使って、選べない入力がある。	●各入力に対して、セットアップ(IR)コードが登録されていない。	●それぞれの入力に対するセットアップコードまたは入力表示用のコードを登録する。 → 46
リモコンで操作できない。	●リモコンが違った操作モードに設定されている。 ●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●オーディオコードおよび、システムコントロールコードが正しく接続されていない。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDが入っていない。 ●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。 ●操作をしようとしている装置がリモートコントロールの操作モードに登録されていない。	●インプットセレクターキーを押して、適切な操作モードを選ぶ。 ●新しい電池と交換する。 ●操作範囲内で操作する。 → 24 ●「接続のしかた」をみて正しく接続し直す。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDを入れる。 ●録音が終わるまで待つ。 ●登録する。 → 43

定格

⚠ このページは安全確保のために必ずお読みください。

オーディオ部

ステレオ モード
- 定格出力（JEITA）（20 Hz 〜 20 kHz、0.09%、6 Ω） .... 100 W + 100 W
- 実用最大出力 .... 130 W + 130 W（JEITA、6 Ω）

サラウンドモード（1ch動作時）
- 実用最大出力
  - FRONT .... 130 W + 130 W（1 kHz、10%、6 Ω）
  - CENTER .... 130 W（1 kHz、10%、6 Ω）
  - SURROUND .... 130 W + 130 W（1 kHz、10%、6 Ω）
  - SURROUND BACK／SUBWOOFER ..... 130 W（1 kHz、10%、6 Ω）
- 最大出力
  - FRONT .... 100 W + 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）
  - CENTER .... 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）
  - SURROUND .... 100 W + 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）
  - SURROUND BACK／SUBWOOFER ... 100 W（1 kHz、0.09%、6 Ω）

全高調波歪率 .... 0.009%（1 kHz、50 W、6 Ω）

周波数特性
- CD/DVD、TAPE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD/6CH .... （10 Hz 〜 100 kHz）+ 0 dB 〜 -3 dB

イコライザ偏差 .... （40 Hz〜20 kHz）+1.5 dB 〜 -3 dB

最大許容入力電圧
- PHONO（MM） .... 45 mV、1%

SN比（IHF'66）
- PHONO（MM） .... 75 dB (JEITA)
- CD/DVD、TAPE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD/6CH .... 95 dB (JEITA)

入力端子（感度/インピーダンス）
- PHONO（MM） .... 4 mV / 47 kΩ
- CD/DVD、TAPE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD/6CH .... 320 mV / 47 kΩ

出力端子（レベル/インピーダンス）
- TAPE REC .... 320 mV / 1 kΩ
- PRE OUT（FRONT、CENTER、SURROUND） .... 1 V / 500 Ω
- PRE OUT（SURROUND BACK） .... 1 V / 500 Ω
- PRE OUT（SUBWOOFER） .... 1 V / 500 Ω

トーン コントロール特性
- BASS .... ±10 dB（100 Hz）
- TREBLE .... ±10 dB（10 kHz）

ラウドネス コントロール特性
- VOLUME -30 dBレベル .... +6 dB（100 Hz）

デジタル部

対応サンプリング周波数 .... 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz

入力端子（感度／インピーダンス／波長）
- オプチカル .... （−15 dBm〜−24 dBm） 660 nm ±30 nm
- コアキシャル .... 0.5 Vp-p／75 Ω

出力端子（感度／インピーダンス／波長）
- オプチカル .... （−21 dBm〜−15 dBm） 660 nm ±30 nm

ビデオ部

入力端子／出力端子（感度／インピーダンス）
- VIDEO（コンポジット） .... 1 Vp-p / 75 Ω

S VIDEO （感度/インピーダンス）
- S VIDEO （Y-信号） .... 1 Vp-p / 75 Ω
- S VIDEO （C-信号） .... 0.286 Vp-p / 75 Ω

COMPONENT VIDEO （感度／インピーダンス）
- COMPONENT VIDEO （Y-信号） .... 1 Vp-p / 75 Ω
- COMPONENT VIDEO （CR/CB-信号） .... ±0.32 Vp-p / 75 Ω

FM チューナー部

受信周波数範囲 .... 76 MHz 〜 90 MHz

アンテナインピーダンス .... 75 Ω不平衡

実用感度（モノラル75 Ω） .... 1.6 µV (75 Ω) 15.2 dBf （75 kHz DEV. SINAD 30 dB）

高調波ひずみ率（1 kHz）
- モノラル .... 0.3 %
- ステレオ .... 0.7 %

SN比
- モノラル .... 75 dB （65 dBf 入力時）
- ステレオ .... 68 dB （65 dBf 入力時）

実効選択度 （±400 kHz） .... 50 dB

ステレオセパレーション（1 kHz） .... 36 dB

周波数特性（30 Hz〜15 kHz） .... + 0.5 dB 〜 -3.0 dB

AM チューナー部

受信周波数範囲 .... 531 kHz 〜 1,602 kHz

実用感度（30%mod.、S/N 20 dB） .... 18 µV (600 µV/m)

SN比（30%mod.、1 mV 入力時）
- モノラル .... 48 dB

電源部・その他

定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示） .... 270 W

待機時消費電力 .... 0.5 W以下

最大外形寸法 .... 幅 : 440 mm
高さ : 159 mm
奥行 : 391.5 mm

重量（正味） .... 11.6 kg

ご注意
1. これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
2. 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

メモリーバックアップ

本機に通電されていない状態にしてから、約1日ほど経過すると、以下の内容が消えますのでご注意ください。

- 電源オン／オフの状態
- 入力切換の設定
- 映像出力
- スピーカーオン／オフ
- ボリュームの値
- BASS、TREBLE、INPUTレベル
- TONE オン／オフ
- LOUDNESS オン／オフ
- DIMMERレベル
- MD／TAPE選択モード
- リッスンモードの設定
- スピーカーセットアップの内容
- サラウンドミックス オン／オフ
- SW RE-MIX オン／オフ
- 距離の設定
- バスピークレベル
- ディスプレイモード
- インプットモードの設定
- ミッドナイトモードの設定
- PRO LOGIC IIモードの設定
- CS IIモードの設定
- 受信バンド
- 周波数
- プリセット放送局
- 受信方法
- THXモード
- ACTIVE EQモード
- SPEAKER EQモード
- DSPモード
- AAC音声設定

保証とアフターサービス（よくお読みください）

保証書（別途添付）
製品には保証書が（別途）添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間
保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は
修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。
（お問い合わせ先は、添付の「ケンウッドサービス網」をご覧ください。）

補修用性能部品の保有期間
当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について
システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼される時は
「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は
保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理／持込修理
「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号（Serial No.）
- お買い上げ年月日
- 故障の症状（できるだけ具体的に）
- ご住所（ご近所の目印等も併せてお知らせください）
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

保証期間が過ぎている時は
保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み
（有料修理の場合は、次の料金をいただきます）
- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料：郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買上げ店名

電話（　　　）　　－

KENWOOD
株式会社ケンウッド

〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

カスタマーサポートセンター東京　電話（03）3477-5335　FAX（03）3477-5334　〒153-0042　東京都目黒区青葉台 3-17-9
カスタマーサポートセンター大阪　電話（06）6394-8085　FAX（06）6394-8308　〒532-0034　大阪市淀川区野中北 2-1-22

アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、添付の「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。